

平成26年度第7回SPODネットワークコア運営協議会 議事次第

日 時：平成26年12月17日（水）13：15～14：30

場 所：各コア校（遠隔会議で実施）

議 題：

1. 平成27年度SPOD事業計画について
 - ・平成27年度SPOD事業計画（案） 【資料1-1】
 - ・SPODフォーラム2015の開催について（案） 【資料1-2】
2. 平成27年度SPOD事業経費について
 - ・平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業経費（案） 【資料2】
3. 平成27年度SPOD内講師派遣について
 - ・平成27年度SPOD内講師派遣プログラム一覧（案） 【資料3-1】
 - ・平成27年度SPOD内講師派遣プログラム概要（案） 【資料3-2】
 - ・平成27年度SPOD内講師派遣について（依頼） 【資料3-3】
 - ・平成27年度SPOD内講師派遣プログラム希望調査（様式） 【資料3-4】
4. 平成26年度SPOD活動報告書について
 - ・平成26年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」活動報告書（冊子版）構成（案） 【資料4-1】
 - ・平成26年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」活動報告書（HP掲載用）構成（案） 【資料4-2】
 - ・平成26年度FD／SD活動の取組報告書（案） 【資料4-3】
 - ・平成25年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」活動報告書 目次 【参考資料1-1】
 - ・平成26年度SPOD事業計画 【参考資料1-2】
 - ・平成25年度FD／SD活動の取組報告書 【参考資料1-3】
5. 平成26年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会及びFD／SD分科会の開催について
 - ・平成26年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会及びFD／SD分科会 実施要項（案） 【資料5】
6. 平成26年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会計監査の実施について
 - ・平成26年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会計監査実施要項（案） 【資料6】
 - ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会計監査実施要領 【参考資料2】

7. 平成26年度SPOD事業評価委員会委員開催について

- ・平成26年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(SPOD)事業評価委員会実施要項(案) 【資料7】
- ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(SPOD)事業評価委員会要項 【参考資料3-1】
- ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業評価委員会委員名簿 【参考資料3-2】

8. 各コア校で実施する新任教員研修について

- ・第22/23回愛媛大学授業デザインワークショップアンケート集計結果 【資料8-1】
- ・授業設計ワークショップアンケート集計結果 【資料8-2】
- ・新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」アンケート集計結果 【資料8-3】
- ・学生の学びを支援する授業準備ワークショップアンケート集計結果 【資料8-4】
- ・新任教員研修アンケート項目について 【資料8-5】
- ・第22/23回愛媛大学授業デザインワークショップ実施要項 【参考資料4-1】
- ・授業設計ワークショップ実施要項 【参考資料4-2】
- ・よりよい授業のためのFDワークショップ実施要項 【参考資料4-3】
- ・学生の学びを支援する授業準備ワークショップ実施要項及びチラシ 【参考資料4-4】

9. 平成26年度大学人, 社会人としての基礎力養成プログラム研修について

- ・平成26年度大学人, 社会人としての基礎力養成プログラム研修(共通科目)アンケート集計結果 【資料9-1】
- ・平成26年度大学人, 社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅡ)アンケート集計結果 【資料9-2】

10. 大学教育カンファレンスin徳島について

- ・大学教育カンファレンスin徳島実施要項 【資料10】

11. 「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」加盟校の退会について

- ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」加盟校の退会について 【資料11】

平成26年度 第7回ネットワークコア運営協議会 出席者名簿

大学名	所 属	氏 名	担当
徳島大学	総合教育センター 教育改革推進部門 教授	川野 卓二	FD
	総合教育センター 教育改革推進部門 准教授	宮田 政徳	FD
	総合教育センター 教育改革推進部門 講師	吉田 博	FD
	総合教育センター 教育改革推進部門 助教	川瀬 和也	FD
	総合教育センター 教育改革推進部門 特任研究員	上岡 麻衣子	FD
	総務部人事課長	関谷 直樹	SD
	総務部人事課課長補佐	沖津 貴司	SD
	学務部教育企画室長	三好 信幸	事務
	学務部教育企画室教育企画係長	金治 志津子	事務
香川大学	大学教育開発センター調査研究部 准教授	葛城 浩一	FD
	大学教育開発センター調査研究部 准教授	佐藤 慶太	FD
	教育・学生支援室修学支援グループ チーフ	石井 さおり	FD
	経営管理室給与福利グループ リーダー	松永 京一	SD
	経営管理室給与福利グループ チーフ	川池 晃子	SD
	教育・学生支援室学務グループ リーダー	野口 豊裕	事務
	教育・学生支援室学務グループ チーフ	中屋敷 美和	事務
	教育・学生支援室学務グループ チーフ	山本 英和	事務
	教育・学生支援室学務グループ グループ員	吉鷹 麻穂美	事務
高知大学	総合教育センター大学教育創造部門 教授	塩崎 俊彦	FD
	総合教育センター大学教育創造部門 准教授	立川 明	FD
	総合教育センター大学教育創造部門 講師	俣野 秀典	FD
	人事課長	中山 胤	SD
	人事課課長補佐	川崎 美保	SD
	人事課労務管理係長	有友 幸代	SD
	学務課総合教育センター事務係長	武内 智之	事務
	学務課総合教育センター事務係 事務補佐員	美川 真希	事務
愛媛大学	教育・学生支援機構副機構長／教育企画室長	小林 直人	議長・FD
	教育企画室 准教授	山田 剛史	FD
	教育企画室 助教	清水 栄子	FD
	教育企画室 特定研究員	林 真弥	FD
	教育企画室 特任助教	丸山 智子	SD
	総務部人事課副課長	久保 秀二	SD
	総務部人事課人事・人材育成チーム	古村 翔	SD
	教育学生支援部長	吉田 一恵	SD・事務
	教育学生支援部教育企画課副課長	織田 隆司	SD・事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームリーダー	濱元 悠子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームサブリーダー	山内 ちあき	事務
	教育学生支援部教育企画課能力開発室	秋山 裕佑	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	戸田 裕香	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	三好 歌織	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	松崎 由里子	事務
教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	神谷 敦子	SD・事務	

平成27年度SPOD事業計画(案)

1. FD事業

- ・新規採用教員研修(年5回) 開催場所:各コア校 ※愛媛大学は2回実施
- ・ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ(年2回)
 - ①全加盟校教員対象(年1回)
 - 開催場所:徳島大学
 - ②高専対象(年1回) 開催場所:愛媛大学
- ・ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ(年1回)
 - 開催場所:愛媛大学または徳島大学
- ・各種FDプログラムの開発・実施 開催場所:各加盟校
 - 研修プログラムガイド2015に掲載したプログラム
- ・ティーチング・ポートフォリオ, アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ
 - 開催場所:愛媛大学
 - ※教職員能力開発拠点(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)主催事業として実施し, 全国(SPOD加盟校含む)開放する

2. SD事業

- ・大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(年5回)
 - 開催場所:香川大学, 愛媛大学
 - レベルⅠ(新任職員研修)
 - 1回 5月中旬(香川大学)
 - レベルⅠ 1回 10月下旬(愛媛大学)
 - レベルⅡ 1回 9月下旬(愛媛大学)
 - レベルⅢ 1回 7月上旬(愛媛大学)
 - 共通科目 1回 9月上旬(愛媛大学)
 - ※主担当:SPOD事務局 協力校:香川大学, 愛媛大学
- ・国際連携系職員養成研修(年1回) 開催場所:愛媛大学
- ・社会連携系職員養成研修(年1回) 開催場所:愛媛大学
 - ※SPODフォーラム2015において開催
 - ※主担当:SPOD事務局 協力校:愛媛大学
- ・次世代リーダー養成ゼミナール(年4回)
 - 開催場所:香川県, 高知県, 愛媛県, 徳島県
 - 第1回 5月下旬 徳島
 - 第2回 7月中旬 香川
 - 第3回 11月上旬 高知
 - 第4回 平成28年1月下旬 愛媛
 - ※主担当:SPOD事務局 協力校:高知大学
 - ※次世代養成ゼミナールの外部講師による一部プログラムについては, 教職員能力開発拠点(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)主催事業として実施し, 全国(SPOD加盟校含む)開放する

- ・職員のための講師養成講座（年2回）開催場所：愛媛大学2回
平成27年6月中旬・12月中旬
※主担当校：SPOD事務局 協力校：愛媛大学
- ・各種SDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校
研修プログラムガイド2015に掲載したプログラム
- ・スタッフ・ポートフォリオの作成ワークショップ
※教職員能力開発拠点（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室）主催事業として実施

3. SPODフォーラム

- ・平成27年8月26（水）～28日（金）（3日間） 開催場所：愛媛大学
「学びの成果をどう可視化するか？」（仮）
※トップリーダーセミナーを併せて開催
※教職員能力開発拠点（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室）と共催

4. SPOD共通事業

- ・SPOD内講師派遣（加盟校単位 各1回 計26-24回） 開催場所：各加盟校
原則として、1法人あたり1回とする。ただし、高等専門学校については、1校あたり1回とする。詳細は、SPODホームページに掲載
- ・SPOD将来構想ワーキンググループ
調査研究プロジェクト事業と連携して訪問調査を実施予定
- ・調査研究プロジェクト事業
年1テーマを研究対象とする予定
 - ①連携効果・組織変容検証プロジェクト（FD部門）
 - ②連携効果・組織変容検証プロジェクト（SD部門）
- ・その他コア運営協議会で承認された事業、プログラム等

5. SPOD運営

- ①総会（年1回） 平成28年3月頃
- ②ネットワークコア運営協議会（月1回程度）
- ③事業評価委員会（年1回） 平成28年3月頃
- ④監査（年1回） 平成28年3月頃
- ⑤その他
 - i. FD/SD分科会
 - ・FD分科会（年1回） 総会と同日開催（平成28年3月頃）
 - ・SD分科会（年1回） 総会と同日開催（平成28年3月頃）
 - ii. SPOD加盟校県内会議 四国各県において必要に応じて実施

SPODフォーラム2015の開催について（案）

（趣旨）

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（ネットワーク略称＝SPOD）」の企画として、SPODの実施する研修プログラム等を集中的に提供する。

（主催）

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

（共催）

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

（日時・会場）

期間 3日間

日時 平成27年8月26日（水）～ 8月28日（金）

会場 受付 法文学部2号館講義棟

プログラム 法文学部2号館講義棟，愛大ミュージアムAL2
南加記念ホール（シンポジウム）

（全体テーマ）

「学びの成果をどう可視化するか？」（仮）

（参加対象者）

1. 「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」加盟校の教職員
2. 1. 以外で，高等教育機関に所属している方及び高等教育行政に携わっている方
※SPOD加盟校の参加者を優先する。
※原則として民間企業に勤務している方の参加はお断りする。

（内容）

あらゆる立場の教職員が、その場でスキルアップにつながるような実践的なプログラムを提供する。

平成27年度SPOD内講師派遣プログラム一覧(案)

ジャンル	区分	No.	プログラム名	担当講師				
				徳島大学	香川大学	愛媛大学	高知大学	阿南高専
授業改善・ 教授法	FD	1	学生の学びを促すシラバスの書き方	宮田,吉田,川瀬	葛城	小林,秦,山田,仲道	塩崎,立川,俣野	
	FD	2	グラフィック・シラバスの作成方法				立川	
	FD	3	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン(ID)入門 ～ARCS動機づけモデルの活用～			仲道		
	FD	4	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？	川瀬	岩中		塩崎,立川,俣野	
	FD	5	大人教講義を魅力的にするテクニック	川野	葛城,佐藤	小林,山田		
	FD	6	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン				俣野	
	FD	7	学生が動く・変わる・生き生きするグループワークの進め方			小林,秦,山田	塩崎,立川,俣野	
	FD	8	教えないで成績を上げるTBL(チーム基盤型学習)という授業方法 大学版反転授業:TBL(チーム基盤型学習)という授業方法				立川	
	FD	9	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計～課題分析図の活用～ ※H27年新規			仲道		
	FD	10	ジグソー学習法を用いたグループワークの進め方 ※H27年新規			村田		
	FD		クラスルームコントロール			秦		
	FD	11	効果的なラーニングの活用方法			仲道		
	FD	12	基礎から学ぶ学習評価法	宮田,川瀬	佐藤	山田,清水	塩崎,俣野	
	FD	13	受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り ※H27年新規				立川	
	FD・SD	14	マインドマップ入門講座(3時間)				俣野	
	FD		マンネリ化しない公開授業の秘訣～公開授業の効果的実施方法～	宮田		秦,山田		
	FD	15	授業アンケートを見直しませんか？～アンケートの効果的実施と活用方法～			秦,山田	塩崎,立川,俣野	
	FD	16	ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～			小林,秦,清水		
	FD	17	高専生を元気にする学生指導法のコツ					坪井
	FD	18	担任教員に求められること～担任スキル開発ワーク～					坪井
FD	19	事例から見た、学生・保護者から信頼される高専教育					坪井	
FD	20	今すぐ役立つ授業Tips アクティブ・ラーニングのスタート ※H27年新規					坪井	

平成27年度SPOD内講師派遣プログラム一覧(案)

ジャンル	区分	No.	プログラム名	担当講師				
				徳島大学	香川大学	愛媛大学	高知大学	阿南高専
業務改善	SD	21	大学職員のための企画力養成講座			秦阿部,仲道,清水,丸山		
	SD	22	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座			秦阿部,仲道,清水,丸山		
	SD	23	インストラクショナル・デザイン(ID/教育設計)を活用した企画・立案マネジメント ※H27年新規			仲道		
	FD・SD		教職員のためのPowerPoint～分かりやすい話の組み立て方・資料作成～分かり易い話し方～				立井	
	FD・SD	24	教職員のためのPowerPoint～30分でマスターするPPT、プレゼン資料からポスター作成まで～ ※H27年新規				立川	
	FD・SD	25	教職員のためのプレゼンテーション～説得力のある話し方、組み立て方～ ※H27年新規				立川	
	FD・SD	26	コーディネータ養成講座 ※H27年新規			仲道		
	FD・SD	27	プロジェクト・マネジメント入門			丸山, 仲道		
	SD	28	スタッフ・ポートフォリオ入門～職員と大学が共に輝くために～			秦阿部,清水,丸山		
	SD	29	持続可能なSDプログラムの開発手法			秦阿部,丸山		
学生支援 に関する プログラム	SD	30	人事人材育成ビジョンの必要性			秦阿部,丸山		
	FD・SD		学習ポートフォリオ入門～学習活動のリフレクション～			秦山田		
IR	FD・SD	31	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	吉田	葛城,佐藤	秦,清水	塩崎,立川	
	FD・SD		教育の質保証と学習成果アセスメント			山田		
危機管理	FD・SD	32	事例から考えるハラスメント ※H27年新規			阿部, 清水, 吉田, 猪野		
	FD	33	学生が輝くFDの実践事例			小林,山田	塩崎,立川,俣野	
事例紹介	SD		職員が輝くSDの実践事例			秦阿部		
	FD・SD	34	SPOD課題委員コンサルテーション FD・SDを効果的に進める組織づくり～事例紹介とお悩み相談～	徳島県内担当	香川県内担当	愛媛県内担当	高知県内担当	

平成27年度SPOD内講師派遣プログラム概要

各プログラムの内容は各校のご希望に応じて可能な限り柔軟に対応いたしますので、実施プログラム決定後、担当講師にご相談ください。

ジャンル	区分	No.	プログラム名	キーワード	内容概要	講師派遣元
	FD	1	学生の学びを促すシラバスの書き方	シラバス、(教授法、評価)	シラバスは、授業デザインの基本であり、より良いシラバスを作ることはより良い授業を作るための出発点となります。しかし、シラバスを作るためには、様々な授業形態、評価方法といった知識がなければなりません。また、授業全体をわかりやすく構築するデザインも必要となります。本プログラムでは、参加者の皆さんに良い授業のヒントを持ち帰っていただくため、シラバスの定義、目的・目標の設定、授業内容、スケジュールのデザイン、評価方法の選択について具体例を示しながら解説します。また、学生の時間外学習を促す事例も紹介いたします。シラバスを持参の上参加いただければ、その場でブラッシュアップしていただくことができます。	コア校
	FD	2	グラフィック・シラバスの作成方法	シラバス、(教授法、評価)	シラバスは、学習目標やスケジュールが書かれた、授業に関する最大重要文書と言えます。ところが、教員が期待するほどには、学生は注意深くシラバスを読んでいるという事実です。たとえば、学生が読んだとしても、教員が持つ背景的知識を踏まえてシラバスの内容を理解することは困難です。グラフィック・シラバスとは、学習内容をフローチャート、ダイアグラム、樹形図として一枚のマップに表現したものです。学生はこれを読むことにより、学習目標や内容を効果的に理解できるだけでなく、容易に記憶にとどめることができ、また教員は、これを通して、自らの授業内容やキーワードを精選し、構造を明確化し、より円滑な流れで授業の再構成を行うことができます。	コア校
	FD	3	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン(ID)入門～ARCS動機づけモデルの活用～	授業設計、動機づけ、学習理論	本プログラムでは、これまで自身が実施してきた教育に対する考え方や実施方法について見て直し、何が課題であるかについて考えるところからはじめ、教育をより効果的・効率的・魅力的にするための方法論であるインストラクショナル・デザイン(以下、IDという)の中から、学習者を動機づけするための手法(ARCS動機づけモデル)や学習者の学びを支援するための動きかけに関する理論を事例とともに学び、ワークショップ形式にて課題解決策の糸口を探っていきます。	コア校
	FD	4	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？	教授法、動機づけ	やる気(学ぶ意欲)は、学生の授業態度、授業外での自主学習の質や量、最終的に学習成果を決定する要因です。授業を通して学生のやる気を引き出すことは私たちの大切な役割です。DVD教材を使用する、グループ活動を行わせる、ゲーム的要素を盛り込む等、学生のやる気を引き出す方法は様々ですが、その場しのぎの活動になってしまったり学習成果は期待できません。学生のやる気を引き出しそのやる気を保持するための理論的な枠組みを理解した上で、どのような授業活動を行うのかを考えていく必要があります。本プログラムを通して、参加者の皆さんに学生のやる気を引き出すための理論的な枠組みを理解していただき、授業に役立つ具体的なアイデアを互いに共有したいと思います。本プログラムをよりインタラクティブで実りのあるものにするために、参加者の皆さんは、自分の授業において学生のやる気を引き出すためにどのような工夫を行っているのかを箇条書きにしたメモをご持参ください。	コア校
	FD	5	大人教講義を魅力的にするテクニック	教授法、講義法	「よい講義とはここでは、聞き手の学生にとって分かりやすく、知的な緊張感があり、さらに学生が参加する(した気にさせる)講義、ということになります。本プログラムでは、学生とコミュニケーションを取る方法、講義に参加させる方法や授業効果を高める方法など、大人数の学生を聴衆とした「よい」講義をするために気をつけておくなければならない様々な授業スキルを、実際に実習を通して習得することができます。また大人教講義でも取り入れることが可能な、簡単な参加体験型授業/アクティブ・ラーニング型授業の一例として、受講者実際にグループワークを体験していただきます。	コア校
	FD	6	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン	教授法、グループ学習	“学びのプロセスに学生自身がどれだけ関わることができたか”が学習成果を左右すると言われるいます。ここ数年、学生参加型や双方向型授業といった名称の授業が増えてきていることの大きな理由がここにあります。そこで本プログラムは、授業の活動性を高めるために、講義の一部にグループ学習やペア学習を取り入れてみたいと考えている教員を主な対象として、そのための考え方や方法(主に協同教育の理論)を参加メンバーと共に学び、理解することを目的として実施されます。	コア校

授業改善・教授法

平成27年度SPOD内講師派遣プログラム概要

各プログラムの内容は各校のご希望に応じて可能な限り柔軟に対応いたしますので、実施プログラム決定後、担当講師にご相談ください。

ジャンル	区分	No.	プログラム名	キーワード	内容概要	講師派遣元
	FD	7	学生が動く・変わる・生き活きするグループワークの進め方	教授法、グループ学習	グループワークを取り入れた参加型授業形式を取り入れる大学教員が増えています。一方、グループ毎に取り組みに差が生じる、グループ内での作業に個人ごとの偏りがあるなど、実施にあたっては課題もあります。本プログラムでは、様々なグループワークの事例を紹介しながら、上手な進め方や成功するためのコツを学びます。参加者は実際にグループワークを体験しながら学習することができます。受講後は、現状よりも活発な話し合いができるようになることを目指します。	コア校
	FD	8	教えないで成績を上げるTBL(チーム基盤型学習)という授業方法 大学版反転授業:TBL(チーム基盤型学習)という授業方法	教授法、グループ学習	教えるでも教えずでも成績が上がらない。そんな悩みはありませんか？ TBL:チーム基盤型学習には次のような特徴があります。正しい知識をたくさん身につけてもらいたい授業に最適です。グループワークで授業を進めるのに、20チームあっても教員1人で回せます。協同学習の要素を取り入れた仕掛けがあるため失敗しにくく、グループワークの経験が少ない教員でも無理なく導入できます。予習が前提で、単位の實質化ができます。何より受講生が元気になる、グループワークのための様々な能力を目標めさせます。こんな授業を一度体験してみませんか？	コア校
	FD	9	NEW! 学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計 ～課題分析図の活用～	授業設計、課題分析図	学生の学びやすさと学習意欲を高めるために、いくつかのID(インストラクショナル・デザイン)理論を用いて授業設計の手法を学びます。学習意欲は、学びやすさによって維持・促進され、動機づけによって高めることができます。学びやすさや意欲を設計するためには、教員が自身の教授内容を明確にし、学生目線で再構築する作業が必要です。その第一段階として、学生に対して「この授業で何が得意になれるのか?」が具体的に伝わる学習目標を提示します。次に、教員の頭にある既に構成された教授内容を一旦分解します。これを課題分析といひ、分解した学習要素をより学びやすく、意欲の向上に効果的な学習順序になるよう再構築します。本プログラムでは、課題分析のワークを通して、これからの授業改善に役立つヒントを持ち帰っていただきます。	コア校
授業改善・教授法	FD	10	NEW! ジグソー学習法を用いたグループワークの進め方	教授法、グループ学習	社会心理学者K.レヴィンをはじめとした集団力学を専門とする研究者たちによってこれまで種々実証されてきたように、グループワークは、受講者が学習に対する積極的な姿勢を抱けるよう変化を促すのに有効な手法として注目されてきました。とりわけ同手法は近年、学校教育の場で広く導入されつつあることは周知のとおりです。しかし、一言で「グループワーク」とは、いっても、その実践方法は玉石混濁であるのが実態です。そこで本講では、それら数ある手法のうち、高い効果が得られるとして良く知られているやり方の1つを体験して頂ければと考えております。これは、社会心理学者E.アロンソンが1978年著書The Jigsaw Classroom(松山安雄訳)ジグソー学級 生徒と教師の心を開く協同学習法の教え方と学び方の中で提唱した「ジグソー学習法」なるもので、この学習法を用いた授業の進め方とその効果を皆さまに紹介することを本プログラムの主たる目的としております。	コア校
	FD		クラスルームコントロール	教授法、教室運営、 動機付け	「居眠りをさせないためのコツ」「私語をさせないためのコツ」といった、学生を授業にうまく引き込み、学生のモヤモヤを最初から最後まで高く維持するための手法について学びます。さらに、授業の準備段階から、授業開始時、途中、終了時において、段階的に効果的な話し合いを活用することで、学生が集中して授業に取り組むようになる手法について、講師の実践例を紹介しながら学びます。	コア校
	FD	11	効果的なeラーニングの活用方法	教授法、eラーニング	高等教育機関において、学習効果を上げるための方法としてeラーニングが注目されています。本プログラムでは、「eラーニングを授業に取り入れてみよう」「eラーニングをどのように活用することが有効なのかを知りたい」「自身の授業改善に役立てたい」「どこから始めるとよいかわからない」という方に対して、実際に授業で活用されている様々なeラーニング事例を紹介するとともに、ワークシヨップ形式にて自身の授業で、どう活用できるかを探っていきます。	コア校
	FD	12	基礎から学ぶ学習評価法	学習評価	本プログラムでは、学習評価の基礎知識である、学習評価の公平性、テストの作成法、学習評価の厳密化と効率化のための評価ツール、について学びます。これまでの自己の学習評価方法を見直し、公平性・厳密性と効率性の両方を満たすものにするためのヒントを持ち帰ることができます。シラバスを持参の上参加いただければ、その場でブラッシュアップしていただくことができます。	コア校

平成27年度SPOD内講師派遣プログラム概要

各プログラムの内容は各校のご希望に応じて可能な限り柔軟に対応いたしますので、実施プログラム決定後、担当講師にご相談ください。

ジャンル	区分	No.	プログラム名	キーワード	内容概要	講師派遣元
授業改善・教授法	FD	13	NEW! 受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り	授業法、講義法	多くの学生は授業を聴くつもりで教室に集まっているわけではないわけではありません。まして授業に参加するつもりで来てはいません。そのようなアウェイクな状況を一瞬で変えられたら先生も気持ちよく授業ができると思いませんか？ 多くの受講生は、授業内容にまったく関心がないわけではありません。でも難しい話を一方的に続けられればいくらがなんぼっても疲れてしまいます。そんなどんなよりも一瞬で打ち払って明るくできたら良いと思いませんか？ そんなテクニク：授業の最初に必要なこと、大事なことが伝わっているか確認する方法、全員の意見分布を知る方法について具体的に紹介いたします。また、それらの方法がなぜ、うまく行くのか、基本的考え方を紹介します。	コア校
	F D S D	14	マインドマップ入門講座（3時間）	思考法、（教授法）	マインドマップは、Tony Buzaniによって開発された思考手法・ノート術で、記憶力・理解力・集中力・創造的的思考力・問題解決力などの様々な能力を高めるとされています。イメージと連想をもとに放射状に思考を広げるところに特徴があり、ビジネスや教育現場において注目されています。 本プログラムは、実際に頭と手を動かしながらMind Mappingを体験することを通して、参加者自身の日々の実践へのヒントを持ち帰ることを目的として実施されます。	コア校
プログラム開発	FD		マンネリ化しない公開授業の秘訣 ～公開授業の効果的実施方法～	公開授業、授業参観	公開授業は、日本において最も一般的な授業改善の一つだと云えます。一方で、形式的な実施に陥っている(マンネリ化)という声も聞きます。「やりっぱなし」にせず、効果的に実施するためには、どうしたらよいのでしょうか。またその結果をどのように活用したらよいのでしょうか。本プログラムでは、国内外の様々な事例を紹介しながら、上記の問いを考えさせていただきます。	コア校
	FD		授業アンケートを見直しませんか？ ～アンケートの効果的実施と活用方法～	授業アンケート	授業アンケートは、日本において最も一般的な授業改善の一つだと言えます。一方で、形式的な実施に陥っている(マンネリ化)という声も聞きます。「やりっぱなし」にせず、効果的に実施するためには、どうしたらよいのでしょうか。またその結果をどのように活用したらよいのでしょうか。本プログラムでは、国内外の様々な事例を紹介しながら、上記の問いを考えさせていただきます。	コア校
	FD		ティーチング・ポートフォリオ入門 ～教育実践のリアプレクシオン～	ティーチング・ポートフォリオ	本プログラムでは、ティーチング・ポートフォリオとは何かについて基本的な内容を学んでいきます。具体的には、ティーチング・ポートフォリオが、教育改善や教育業績評価にいかなる点で役立つかといった必要性と有効性について、また、ティーチング・ポートフォリオ作成のための要点と手順について学ぶ機会を設けています。ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップへ参加予定の先生方は事前準備として活用いただけます。	コア校
高専向け	FD		高専生を元気にする学生指導法のコツ	高専、学生指導	成長途上の学生へのサポートでは、人間関係の悩み、保護者との連携、教員間の協同などについて知識と対応のスキルを求められます。学生それぞれに異なる悩みを受けとめ、その成長を支えることは容易ではありません。保護者の価値観は多様で、学校の教育方針と一致しないことも少なくありません。一方、教員間で教育情報を共有し協同することも難しい問題です。それでも、学生はサポートを必要としています。本プログラムは、高専の教育現場で起きている事例について、どう対応すれば適切に学生をサポートできるのか、グループワークによるケーススタディを中心に検討し、広範な学生サポート力の獲得に資するよう展開します。	阿南高専
	FD		担任教員に求められること ～担任スキル開発ワーク～	高専、学生指導	心の揺らいでいる学生に、まず寄り添うのは、担任教員です。担任教員は、学生サポートのために次のことを始めとする様々なスキル(意識、知識と能力)を求められます。担任教員に必要な基礎的スキルを整理して時系列に整理することにより、教員団の教育力向上に資することを目指します。 数年の担任経験を有し、担任スキルの高度化と共有、校内での教育連携の必要性を感じている教員を対象とするワークです。 ・学生との接し方 ・自殺や不登校 いじめのサイン ・教育連携の方法 ・保護者対応 ・奨学金 ・休業時の手続き ・授業料納付期限、除籍 ・高等学校卒業程度認定試験 ・ハラスメント ・危機管理フ	阿南高専

平成27年度SPOD内講師派遣プログラム概要

各プログラムの内容は各校のご希望に応じて可能な限り柔軟に対応いたしますので、実施プログラム決定後、担当講師にご相談ください。

ジャンル	区分	No.	プログラム名	キーワード	内容概要	講師 派遣元
高専向け	FD	19	事例から見た、学生・保護者から信頼される高専教育	高専、教育経営	学校教育の不調は、時に、強いクレームや裁判として顕在化します。教育活動そのものに問題がある場合、教育活動への理解を得られない場合など様々ですが、いずれも学生・保護者から学校および教員が信頼を得られていないことが最大の要因の一つです。裁判事例をふまえて先行研究を参照しつつ、教育現場の観点から信頼される高専教育のあり方を確認します。あわせて、各高専において、信頼される教育活動を全学的に行うための検証・支援方法について考えましょう。	阿南高専
	FD	20	NEW！ 今すぐ役立つ授業Tips アクティブ・ラーニングのスタート	教授法、動機づけ	アクティブ・ラーニングは有効な学習形態ですが、そのためには学生のモチベーションが欠かせません。本プログラムは、内発的動機づけをサポートして学生の学習活動を活性化する方法を紹介し、グループによるミニワークで確認します。 取り上げるのは、「アプローチトーク、個人名空間、肯定的フィードバック、Think-Pair-Share、クラスルームコントロール、問いかけ、回答への対応、Illusion of choice、ラウンド意見交換」などです。	阿南高専
	SD	21	大学職員のための企画力養成講座	企画力、プレゼンテーション力	大学職員に必要な能力として「問題発見・解決能力」がよく取り上げられています。本プログラムは、大学改革、業務改善を行っていく上での、「問題発見・解決能力」と「企画提案力」の手法を学ぶものです。このプログラムで身につけた手法や企画書を実際に大学に持ち帰り、上司や大学に提案できるよう、実践に即したスタイルで行います。大学や今の業務に疑問や改善点を持たれている職員の方はもちろん、どうやって見つけたらよいか、提案したら良いのか分からない職員の方もご参加ください。	コア校
	SD	22	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	判断力・決断力、ディベート	判断・決断は上司や役職者だけが行うものだと思っていないませんか。実は、若手・中堅職員においても、業務の中で、判断・決断を下さなければならぬ場面は多々あります。 あなたはどのように判断・決断を行っていますか？そもそも、判断と決断の違いとは何でしょうか？また、判断を速やかに行うには何か必要であり、決断を下すには何をもちに行えば良いのでしょうか？判断や決断が速やかな人は好感を持たれますが、その判断や決断が誤っていると信頼を失います。また一方で、決定しやすい判断が良い判断とは限りません。 このように、本セミナーでは、判断力と決断力の違い、それらを効果的に行うために必要な条件を理解した上で、実践トレーニングを行うことで参加者の皆さんの判断力・決断力スキルの上昇を図ります。 当日は、レクチャーやグループワーク、ディベートなどを組み合わせ、進めていきます。	コア校
業務改善	SD	23	NEW！ インストラクショナル・デザイン(ID)／教育設計)を活用した企画・立案マネジメント	企画立案マネジメント、現状分析	本プログラムでは、問題解決手法であるインストラクショナル・デザイン(ID)／教育設計)を理解し、その後、ワークシヨップ形式にて、自身の業務実践の場に活かせる業務の効率化や課題解決に向けた方策が見出せるようになることを目指します。まず、自身の大学で業務や教育の改善・改革を推進したいと考えている事柄を取り上げるところからはじめ、一般的に改革を推進する上で、ポイントとなる現状分析を丁寧に学び、改革の一端を担う際の効果的な思考を身に認識し、ゴールに向けて方略・戦略をデザインするための方法論を学び、改革の一端を担う際の効果的な思考を身に身につけます。 使える便利なものばかりではない、いまさら効果的に使えないものは、いかに活用するか、その点を踏んでいきたいと思います。パワーポイントなどのスライドウェアは授業でプレゼンテーションする教員はもちろんです。意外に使えらる職員の方々の皆さんも便利ツールです。何かをプレゼンテーションすることを前提に、一連の流れを体験してみましょう。プレゼンテーションするには構想、資料作成、発表練習の3段階がありますが、あまりにも資料作成に時間をかけるあまり、効果的なプレゼンテーションに結びつかない人が非常に多いです。プレゼンで失敗しないために3つのステップで何をやっておかなければならないかを一度体験してみましょう。	コア校
	FD SD	24	NEW！ 教職員のためのPowerPoint ～分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方～	PowerPoint	新しいアプリケーションの使い方を一から覚えるのはおつうです。でも、30分でマスターできることしたら？ PowerPointでは、スライド資料を作成する他、縦型のポスターやチラシなども作成することが可能です。授業でプレゼンウェアを使いたい教員はもちろん、業務でポスターやチラシ、ポテンシャルを書かなければならない職員の皆さんも、使い方を覚えようと意外に便利です。この際、30分でマスターしちゃいましょう！ *PPT実習ほんとは30分！アイスブレイキング、見やすい資料作成のコツ(レクチャー)、PPT資料のプロジェクト出力、ふりかえり等計2時間程度のプログラムです。	コア校

平成27年度SPOD内講師派遣プログラム概要

各プログラムの内容は各校のご希望に応じて可能な限り柔軟に対応いたしますので、実施プログラム決定後、担当講師にご相談ください。

ジャンル	区分	No.	プログラム名	キーワード	内容概要	講師 派遣元
業務改善	F D	25	NEW! 教職員のためのプレゼンテーション ～説得力のある話し方、組み立て方～	プレゼンテーション	あの人の話し方は分かりやすいよな～ あんなふうに話せたらいいよな～と思うことはありませんか？ 本当に分かり易く話す必要があるのでしょうか？ 実は話し方や雰囲気を感じ方がずいぶん変わるものです。授業に限らず人前で話したり会議する機会に好感が持たれ、聞いてもらえる話し方を身につけましょう。そのためには呼吸法と発声法、そのための姿勢、そして話し方の組み立て方が重要です。ちよつとやってみましょう！	コア校
	F D	26	NEW! コーディネーター力養成講座	台意形成、調整、ゴール設定	仕事におけるコーディネーターとは、何をどのようにすることなのか。目標達成のために部局や立場を超えて、必要なスキルや能力を備えた人を集めるだけでなく、チームの中で異なる分野(領域)・個々の利害による関係を調整し、全体の合意を形成し、向かうべき目標・ゴールまで着実に誘導していくこと、これが仕事におけるコーディネーター力です。職場におけるコーディネーターという役割は、物理的なシステムでは解決できない、人にしか担当できない仕事と云えます。 本ワークショップでは、グループワーク等を通じて、チームの各メンバーが持つアイデアや意見、情報をうまく引き出し、まとめ、一つの目標達成に向かえるようにするまでのコーディネーターの実践とコツについて、学んでいただけたらと思います。	コア校
人材育成・人事制度	F D	27	プロジェクト・マネジメント入門	計画立案、進捗管理	プロジェクトを成功させるためには何が必要か、その基本となる方法論やプロセスを習得することを目指します。様々な規模のプロジェクトが存在する中、日々の日常的な業務の効率化を図るツールとしても活用できます。プロジェクトを成り行きに任せるのではなく、しっかりコントロールすること、及び終了後のフィードバックの重要性を学びます。部署内、及び部署を横断したプロジェクトが増えていくなか、最終的には、プロジェクトマネジメントを職場で実際に適用するためのポイントの説明ができるようになることを目標としています。	コア校
	SD	28	スタッフ・ポートフォリオ入門 ～職員と大学が共に輝くために～	自己理解、メンタリング、業務整理	スタッフ・ポートフォリオとは、職員自らがキャリア形成を図れ、組織としてはこれにより職員一人ひとりの可能性や潜在能力を知ることができるツールのことです。本プログラムでは、スタッフ・ポートフォリオの詳しい定義やその有益性を説明した後に、SPOD-SDでの活用例及び愛媛大学での導入例や実際にスタッフ・ポートフォリオを作成した職員の声を聞き、実践例を示します。 スタッフ・ポートフォリオは大学や大学職員人事マネジメントにどのような影響や効果を与えるのでしょうか。また、職員個人にどのような影響や効果があるのでしょうか。さらには、スタッフ・ポートフォリオは簡単に作成することができるのでしょうか。作成する場合に重要なことは何でしょうか。このような疑問を一つずつ解決できるようなプログラムとなっています。	コア校
	SD	29	持続可能なSDプログラムの開発手法	SDプログラム開発	SDとは事務系職員の能力開発活動であり、人材開発から始まって、組織の活性化、組織の業績向上、最終的には大学等の特性として地域の活性化と結びついていくものです。SDには、職場の中で仕事に就きながら仕事に即して教育するOJT(職場内教育)と職場から一定期間離れてまとまった教育をするOFF-JT(職場外教育)があり、意図的、計画的、持続的に実施しなければならぬ。本プログラムはそのプログラム開発のための手法を学ぶ作業を行います。	コア校
SD	30	人事人材育成ビジョンの必要性	人材育成ビジョン	本プログラムは、SPODに加盟する各大学の人事・人材開発の担当職員に対して、各大学にふさわしい人事マネジメントシステムを効果的に機能させ、職員一人ひとりが優れた人材に育っていくための基本的な人材育成ビジョン開発の手法を理解することができま	コア校	

平成27年度SPOD内講師派遣プログラム概要

各プログラムの内容は各校のご希望に応じて可能な限り柔軟に対応いたしますので、実施プログラム決定後、担当講師にご相談ください。

ジャンル	区分	No.	プログラム名	キーワード	内容概要	講師派遣元
学生支援	FD		学習ポータル入門 ～学習活動のリフレクション～	学習ポータル	近年の大学教育改革において、学びを通じて得た様々な力を可視化するための手段の一つとして「学習ポータル」が注目されています。学生が在学中に経験したこと、身につけたもの(学習の成果)を紙媒体あるいは電子媒体(e-ポータル)によって蓄積していきます。学生はこの作業によって自らの学びを振り返り、意味づけ、自身の目標ややるべきことを明確にするとともに、就職時などにも活用することが可能になります。教職員にとっては、多様な学修履歴をもつ学生個々人の特性を踏まえて指導にあたることで、対外的な評価に対する教育成果(エビデンス)としても示すことができます。	コア校
	SD				本プログラムでは、こうした学習ポータルの特徴(特徴や事例等)を踏まえて、所属組織において望ましい学習ポータル作成や活用方法について共に深めていきたいと思います。	
IR	FD	31	学生の自立を促す学生支援の実践とコソ	学生支援	学内での学生活動の中心となるリーダー育成や学生同士によるピア・サポートが新たな学生支援として注目を浴びています。四国内でもそのような取り組みが盛んにおこなわれており、それらの事例と教職員がどのように関与しているのかの点の両方について聞いていきます。必要に応じて、取り組みに関与している学生の生の声も聞けるようにいたします。教職員だけでなく、学生を巻き込んだ総合的な研修となっています。	コア校
	SD				学習成果 教育の質保証と学習成果アセスメント 学習成果測定は、教育の質保証に関する国際的動向の中で喫緊の課題として注目されています(例えば、OECDのAHELO等)。国内では中教審による「学生力」や日本学術会議による「分野別の教育課程編成上の参照基準」等が提唱され、急速にアウトルームに基づく学士課程教育の体系化が求められています。しかし、国内外ともに学習成果等の測定は概念の曖昧さも含めて充分に議論や実践が成熟しているとは言えない状況です。同時に、その測定方法も多様で、唯一の解は存在しません。そこで、自らの所属する機関の特性・文脈を踏まえつつ、学生調査などを始めとして様々な観点から学習成果の測定に関する多様な実践を蓄積し検証していく必要があります。	
危機管理	FD	32	NEW! 事例から考えるハラスメント	ハラスメント事例、施策	本プログラムでは、大学等において、今、身近にあるハラスメントについて説明すると共に、なぜハラスメントが無くならないのかの問題提起します。そして複雑かつ多様化するハラスメントについて、具体的事例を挙げながら、「ケースメソッド」により省察し、①ハラスメント認定のポイント、②ハラスメントが起きた場合の対処方法、③ハラスメント「施策」を導きだしていきます。	コア校
	SD				本プログラムでは、FDの意義・定義・歴史・国際動向、FDの取組み事例、推進する上でのコツを説明します。また国内外の優れた取組み事例、組織体制を紹介いたします。希望に応じて所属機関のFDに関するコンサルティングやニーズ分析を行います。本格的なFDの取組みはこれからという導入時期に最適なプログラムです。	
事例紹介	FD	33	SD実践事例	SD実践事例	SDを担当する者にとって、職場内能力開発の基本的な知識が必要です。しかしながら、高等教育関係者がこうした基本的な内容を学ぶ機会には限られています。そもそも職場における能力開発は何のために行うのか、どのような類型があるのか、企画・実施・評価というサイクルをどのように回していけばよいのか、そして、機能的な能力開発組織をどう構築したらよいか、こうした基本的内容を学び、日々の実践を見直し、本プログラムでは、機能的な能力開発組織(SD担当部署)の事例や、組織的な能力開発体系の事例も学びながら、高等教育機関において、どのように組織的に能力開発を進めていけばよいかを考えます。	コア校
	SD				FD実践事例 FD実践事例 職員が輝くSDの実践事例	
	FD	34	SPOD課題発見コンサルテーション FD・SDを効果的に進める組織づくり ～事例紹介とお悩み相談～	コンサルティング	FD・SDの現状と課題に関する情報交換、成功事例の紹介等を行いながら、開校の事例紹介を基に、当該組織においてFD・SDを効果的に進めるための相談に柔軟に対応します。コンサルティングを行います。FD・SDに取り組んでいるがマンネリ化したきた、担当者が行き詰っているなどの課題がある場合に最適なプログラムです。教職員全員を対象とせず、より、管理職やFD・SD担当者等との小規模のディスカッション形式が向いています。実施します。	コア校
	SD					

平成26年 月 日

別紙 事務担当者 殿

SPOD事務局(愛媛大学教育企画課)

平成27年度SPOD内講師派遣について(依頼)

日頃より、SPOD事業に対する御理解、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、SPODはお陰様で今年で設立7年目を迎え、平成25年度SPODネットワーク総会でもお知らせしておりますとおり、昨年度設置された「SPOD将来構想ワーキンググループ」の中で、今後の運営について検討を始めたところです。

同ワーキンググループでは、毎年1回^(※)無料で研修講師の派遣を行っている本事業のあり方についても検討がなされております。

つきましては、例年行っております派遣プログラムの希望調査に加え、各加盟校のFD/SD活動における派遣プログラムの位置づけについても併せて調査し、当該事業を貴組織においてより有効的に機能させるための検討材料とさせていただきたいと存じます。各加盟校におけるFD/SD活動への長期的な支援の一環として、各校の方針に沿って当該事業を御活用いただくため、御協力をお願いいたします。

については、別添様式により平成27年2月27日(金)までにSPOD事務局(spod@stu.ehime-u.ac.jp)に御提出ください。

なお、平成27年度よりは、SPOD内講師派遣プログラムについては「プログラムガイド」への掲載を行わないことといたしましたので、その旨御了承ください。

※ 1法人に複数大学・短期大学・短期大学部が併設されている場合は1法人あたり1回の派遣とします。(高等専門学校除く)

(添付ファイル)

- 1 依頼文書
- 2 SPOD内講師派遣プログラム一覧(回答様式)
- 3 SPOD内講師派遣プログラム一覧(記載例)
- 4 SPOD内講師派遣プログラム概要一覧

(担当)
SPOD事務局(愛媛大学教育企画課)
濱元, 山内, 松崎
TEL 089-927-9154
E-mail spod@stu.ehime-u.ac.jp

SPOD内講師派遣送付先一覧

送付先法人等名	参考 加盟大学等名
徳島大学	同左
鳴門教育大学	同左
香川大学	同左
愛媛大学	同左
高知大学	同左
香川県立保健医療大学	同左
愛媛県立医療技術大学	同左
高知県公立大学法人	高知県立大学
	高知短期大学
	高知工科大学
学校法人四国大学	四国大学
	四国大学短期大学部
学校法人村崎学園	徳島文理大学
	徳島文理大学短期大学部
学校法人四国高松学園	高松大学
	高松短期大学
学校法人聖カトリック学園	聖カトリック大学
	聖カトリック大学短期大学部
学校法人松山大学	松山大学
	松山短期大学
学校法人松山東雲学園	松山東雲女子大学
	松山東雲短期大学
徳島工業短期大学	同左
香川短期大学	同左
今治明德短期大学	同左
環太平洋大学短期大学部	同左
高知学園短期大学	同左
阿南工業高等専門学校	同左
香川高等専門学校	同左
新居浜工業高等専門学校	同左
弓削商船高等専門学校	同左
高知工業高等専門学校	同左

平成27年度SPOD内講師派遣プログラム希望調査

学校名:

SPOD共通事業であるSPOD内講師派遣事業をご利用いただくにあたり、各加盟校におけるFD/SD活動への基本方針を考慮した上で、講師派遣を希望するプログラムを裏面の表から3つお選びください。各加盟校から回答をいただいた後、コア校で講師を調整の上、決定プログラムを連絡します。なお、希望プログラムが無い場合には、対象校と相談の上、プログラムNo. 34として情報交換等のために訪問させていただきます。

留意事項

- ・各加盟校につき、1回1プログラムの実施とします。ただし、1法人に複数大学・短期大学・短期大学部が併設されている場合は1法人あたり1回とします。(高等専門学校除く)
- ・調整の関係上、希望順位を付して3つ選択してください。
- ・実施内容の詳細については、プログラム決定後、担当講師に直接ご相談いただくこととなります。

(1)[経緯] 第1希望(裏面)の選択したプログラムを希望選択するに至った、貴組織の背景、状況(主催者の意図)等をお知らせください。

(2)[目的/目標] 今回の研修の目的/目標はどのようなものでしょうか？

(3)[参加者] 参加者はどのような方々(専門分野、経験、役職等)で、何名ほどの参加(全員必修か希望者のみの参加かを含む)を見込んでいますか？

(4)[今後の計画] (可能であれば)貴組織において今後どのようにFD/SD活動を進めていく予定かお教えてください。

→裏面へ続く

平成27年度SPOD内講師派遣プログラム希望調査

学校名:

(5) 講師派遣を希望するプログラムを3つ選んでいただき、「希望順位」欄に希望順に(1～3の番号)を付して記載してください。
原則として第1希望での派遣を実施いたしますが、多大学が同一プログラムを希望した場合は調整させていただきます。

ジャンル	区分	キーワード	No.	プログラム名	形態	希望順位
授業改善・ 教授法	FD	シラバス、(教授法, 評価)	1	学生の学びを促すシラバスの書き方	講義, ミニワーク	
		シラバス、(教授法, 評価)	2	グラフィック・シラバスの作成方法	講義, ミニワーク	
		授業設計, 動機づけ, 学習理論	3	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うための インストラクショナル・デザイン(ID)入門 ～ARCS動機づけモデルの活用～	講義, ミニワーク	
		教授法, 動機づけ	4	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは?	講義, ミニワーク	
		教授法, 講義法	5	大人数講義を魅力的にするテクニック	講義, ミニワーク	
		教授法, グループ学習	6	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン	講義, ミニワーク	
		教授法, グループ学習	7	学生が動く・変わる・活き活きするグループワークの進め方	講義, ミニワーク	
		教授法, グループ学習	8	教えないで成績を上げるTBL(チーム基盤型学習)という授業方法 大学版反転授業:TBL(チーム基盤型学習)という授業方法	講義, ミニワーク	
		授業設計, 課題分析図	9	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計～課題分析図の活用～ ※H27年新規	講義, ミニワーク	
		教授法, グループ学習	10	ジグソー学習法を用いたグループワークの進め方 ※H27年新規	講義, ミニワーク	
		教授法, 教室運営, 動機付け		クラスルームコントロール	講義, ミニワーク	
		教授法, eラーニング	11	効果的なeラーニングの活用方法	講義, ミニワーク	
		学習評価	12	基礎から学ぶ学習評価法	講義, ミニワーク	
		教授法, 講義法	13	受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り ※H27年新規	講義, ミニワーク	
FD・SD		思考法, (教授法)	14	マインドマップ入門講座(3時間)	講義, ミニワーク	
プログラム 開発	FD	公開授業, 授業参観		マンネリ化しない公開授業の秘訣～公開授業の効果的実施方法～	講義, ミニワーク	
		授業アンケート	15	授業アンケートを見直しませんか?～アンケートの効果的実施と活用方法～	講義, ミニワーク	
		ティーチング・ポートフォリオ	16	ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～	講義, ミニワーク	
高専向け	FD	高専, 学生指導	17	高専生を元気にする学生指導法のコツ	講義, ミニワーク	
		高専, 学生指導	18	担任教員に求められること～担任スキル開発ワーク～	講義, ミニワーク	
		高専, 教育経営	19	事例から見た, 学生・保護者から信頼される高専教育	講義, ミニワーク	
		授業法, 動機づけ	20	今すぐ役立つ授業Tips アクティブ・ラーニングのスタート ※H27年新規	講義, ミニワーク	
業務改善	SD	企画力, プレゼンテーション力	21	大学職員のための企画力養成講座	講義, ミニワーク	
		判断力・決断力, ディベート	22	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	講義, ミニワーク	
		企画立案マネジメント, 現状分析	23	インストラクショナル・デザイン(ID/教育設計)を活用した企画・立案マネジメント ※H27年新規	講義, ミニワーク	
	FD・SD	プレゼンテーション		教職員のためのPowerPoint～分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方～	講義, ミニワーク	
		PowerPoint	24	教職員のためのPowerPoint～30分でマスターするPPT, プレゼン資料からポスター作成まで～ ※H27年新規	講義, ミニワーク	
		プレゼンテーション	25	教職員のためのプレゼンテーション～説得力のある話し方, 組み立て方～ ※H27年新規	講義, ミニワーク	
		合意形成, 調整, ゴール設定	26	コーディネート力養成講座 ※H27年新規	講義, ミニワーク	
	27	プロジェクト・マネジメント入門	講義, ミニワーク			
人材育成・ 人事制度	SD	自己理解, メンタリング, 業務整理	28	スタッフ・ポートフォリオ入門～職員と大学が共に輝くために～	講義, ミニワーク	
		SDプログラム開発	29	持続可能なSDプログラムの開発手法	講義, ミニワーク	
		人材育成ビジョン	30	人事人材育成ビジョンの必要性	講義, ミニワーク	
学生支援 に関する プログラム	FD・SD	学習ポートフォリオ		学習ポートフォリオ入門～学習活動のリフレクション～	講義, ミニワーク	
		学生支援	31	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	講義, ミニワーク	
IR	FD・SD	学習成果		教育の質保証と学習成果アセスメント	講義, ミニワーク	
危機管理	FD・SD	ハラスメント事例, 施策	32	事例から考えるハラスメント ※H27年新規	講義, ミニワーク	
事例紹介	FD	FD実践事例	33	学生が輝くFDの実践事例	講義	
	SD	SD実践事例		職員が輝くSDの実践事例	講義	
	FD・SD	コンサルティング	34	SPOD課題発見コンサルティングFD・SDを効果的に進める組織づくり～事例紹介とお悩み相談～ ※ 加盟校へ訪問してのFD・SDの現状と課題に関する情報交換, 成功事例の紹介等, 加盟校の実態に合わせて内容, 形態とも柔軟に対応しま	相談の上, 決定	

平成26年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」

活動報告書（冊子版）構成（案）

~~はじめに → 企画・実施統括者（愛媛大学 小林教授）~~

1. 会長挨拶 → 会長（愛媛大学 柳澤学長）
 2. SPOD事業の概要 → SPOD案内チラシ
 3. 平成26年度事業計画 → SPOD事業計画
 4. 平成26年度全体総括 → 全体総括，実施内容／成果
 5. 平成26年度活動実績
 - (1) FDプログラム → 実施日程，実施場所，主催，受講者数
 新任教員，~~プレFDプログラム，FDer~~，ティーチングポートフォリオ，~~新規プログラム~~
 アカデミックポートフォリオ，各種FDプログラム
 - (2) SDプログラム → 実施日程，実施場所，主催，受講者数
 各種SDプログラム，スタッフポートフォリオ，SPOD-SDC名簿
 - (3) SPODフォーラム → SPODフォーラム2014の概要，チラシ，
 シンポジウム内容，受講者数，アンケート結果
 - (4) SPOD共通事業 → SPOD内講師派遣の概要，実施状況一覧，
 研修プログラム一覧，遠隔システム配信校一覧
 調査研究プロジェクトの概要
 - (5) SPOD運営 → 会議開催日程
 6. 平成26年度各加盟校の取組報告
 7. 平成25年度事業評価委員会からの事業評価について → 評価，対応，要項，名簿
 8. 平成27年度事業について → 平成27年度SPOD事業計画（案）
- 参考資料 ・ネットワーク規約，役員名簿

平成26年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」

活動報告書（HP掲載用）構成（案）

はじめに

1. 会長挨拶
2. SPOD事業の概要
3. 平成26年度事業計画
4. 平成26年度全体総括
5. 平成26年度活動実績

（1）FD事業

①新任教員及び大学院生、~~ポストドク向け標準的（プレ）FD~~プログラムの開発，実施

- ・新規採用教員研修（5回）

→基準枠組対応表，新任教員研修（5回）の実施要項，アンケート結果

~~・プレFDプログラム~~

~~・ファシリテーション力養成道場（1回）→実施要項，アンケート結果~~

~~・TA講習（2回）→実施要項，アンケート結果~~

②FDerの養成

~~・FDファシリテーター養成研修（1回）→実施要項，アンケート結果~~

③教育業績記録（ティーチング・ポートフォリオ）の開発

- ・ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（3回）

→TPWSの実施要項，アンケート結果（3月開催の分は実施要項のみ掲載）

- ・ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ（1回）

→TPWSの実施要項，アンケート結果

- ・アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ（1回）

→APWSの実施要項，アンケート結果

~~④各種FDプログラムの体系化・標準化に向けた開発，実施~~

~~・新規プログラム（SPODフォーラム等）~~

（2）SD事業

①SDプログラムの開発，実施

- ・大学人・社会人基礎力養成プログラム（レベルⅠ～Ⅲ，共通）（5回）

→ 実施要項，アンケート結果

- ・学務系職員養成プログラム（レベルⅠ）（1回） → 実施要項，アンケート結果
- ・~~社会連携系職員養成研修（1回） → 実施要項，アンケート結果~~
- ・国際連携系職員養成プログラム開発ワークショップ → 実施要項，アンケート結果
- ・次世代リーダー養成プログラム（4回） → 実施要項
- ・職員のための講師養成講座（2回） → 実施要項，アンケート結果
- ・高等教育トップリーダーセミナー（1回） → 概要，アンケート結果
- ・SPOD-SDC名簿

②職員業績記録（スタッフ・ポートフォリオ）の開発

- ・スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ（1回） → 概要，アンケート結果

(3) SPODフォーラム

(4) SPOD共通事業

① SPOD内講師派遣（加盟校単位 各1回 計24校）

→アンケート結果（受講者），アンケート結果（担当者，2月末〆切で依頼）

② 調査研究プロジェクト → プロジェクト報告

(5) SPOD運営

① 「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会，FD/SD分科会

→総会及び分科会の実施要項

② ネットワークコア運営協議会 → 議事概要

③ 各県内加盟校会議 → 議事概要

6. 平成25年度事業評価委員会からの事業評価について

7. 平成27年度事業について

※1～4，6，7は冊子版と同内容

平成26年度 FD／SD活動の取組報告書（案）

学校名： **学校名を記載してください。**

【平成26年度の教育改革に関わる動向】

平成26年度の貴学におけるFD／SD活動について総括コメントを記載してください。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

平成26年度に実施したFD／SDの取組事例について記載してください。

事例については、SPOD事業に関するものでも、貴学独自の取組でも構いません。

事例数に特に制限はありません。

【成果及び波及効果】

FD／SDの取組成果及び成果に関する情報の公表（手段・媒体）について記載してください。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

平成26年度の取組内容を振り返り、次年度の課題や目標を記載してください。

※報告書はA4用紙1枚以内で作成してください。

なお、補足資料がある場合は、別途添付してください。

※写真等の添付は必要ありません。

※上記4項目について記載していただければ、内容や書き方は自由です。

=====

※本報告書は平成26年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」活動報告書に掲載すると共に、同ネットワーク総会及びFD／SD分科会の資料として、関係者に配付する予定です。

=====

平成26年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会
及びFD／SD分科会 実施要項（案）

主 催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）
日 時：平成27年3月下旬 13：00～16：00
場 所：（総会）愛媛大学城北キャンパス 総合情報メディアセンターメディアホール
（FD／SD分科会）愛媛大学城北キャンパス愛大ミュージズ
出 席 者：（総会）加盟校各大学長、短期大学長、高等専門学校長等
（FD／SD分科会）加盟校 FD／SD担当者等

【総 会】

- 13：00 開会挨拶 SPOD会長：愛媛大学長
- 13：05 平成26年度の「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業の
実施状況について（25分）
- 13：30 平成27年度の「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業の
運営について（30分）
- 14：00 質疑応答（30分）
- 14：30 閉 会

【FD／SD分科会】※FD分科会及びSD分科会を2箇所で開催

- 15：00 各加盟校での取り組み状況の報告
今後の具体的な事業の進め方について
意見交換 など
- 16：00 閉 会

平成26年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会計監査実施について

日 時：平成27年3月下旬10：30～ 1時間程度

場 所：愛媛大学城北キャンパス愛大ミュージズ

出席予定者：田中監事（鳴門教育大学長）

南監事（高知県立大学長）

対 応 者：小林企画・実施統括者（愛媛大学），SPOD事務局

実施内容：①平成26年度事業予算執行状況報告

②平成26年度事業実施状況報告

③質疑応答

※会計監査結果については，SPOD総会において報告する。

平成26年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(SPOD)

事業評価委員会実施要項(案)

(趣旨)

平成26年度における「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(ネットワーク略称=SPOD)」の活動内容や前年度の評価委員からの指摘事項に対する改善状況について、実績報告書をもとにSPOD事業評価委員会委員から評価を行っていただき、今後の事業推進に役立てる。

(主催)

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

(日時)

平成27年3月(3時間程度開催予定)

※各委員との日程調整後、正式に決定する。

(場所)

愛媛大学城北キャンパス愛大ミュージズ(松山市文京町3番)

(参加予定者)

SPOD事業評価委員会委員

沖委員(立命館大学), 各務委員(順天堂大学), 栗田委員(東京大学),

田中委員(九州大学), 福島委員(追手門学院大学)

SPOD関係者

ネットワークコア校のSPOD-FD/SD担当者

(事務担当)

愛媛大学教育学生支援部教育企画課(SPOD事務局)

第22回授業デザインワークショップ事後アンケート結果

参加者数: 14名(国立・4年制大学14名)

回答者数: 13名

開催日時/場所: 平成26年7月5日(土)~6日(日)/久万高原ふるさと村

【設問1】本ワークショップの参加の経緯についてお答え下さい

【1-1】ワークショップへの参加動機は何ですか(複数選択可)

1. 実施要項を見て内容に興味をもったため	6	46.2%
2. 所属部署からの依頼があったため	1	7.7%
3. 他大学・他部署の人と交流したため	1	7.7%
4. 新任研修に参加して興味をもったため	3	23.1%
5. テニユア・トラック必須EDプログラムだから	6	46.2%
6. その他	0	0.0%
合計		

【1-2】1-1で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい

【1-3】ワークショップの目的や内容について、ある程度知った上で参加した

1. そうである	6	46.2%
2. どちらかといえばそうである	4	30.8%
3. どちらかといえばそうではない	3	23.1%
4. そうではない	0	0.0%
合計	13	100.0%

【設問2】本ワークショップの内容についてお答え下さい

【2-1】ワークショップの目的は、明確に設定されていた

1. そう思う	10	76.9%
2. どちらかといえばそう思う	3	23.1%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	13	100.0%

【2-2】ワークショップは、自分の業務(教育実践)に生かせる内容であった

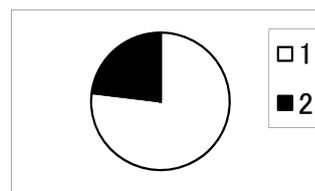
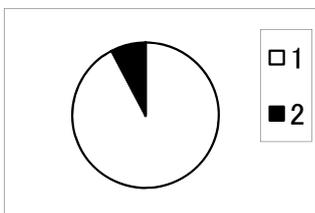
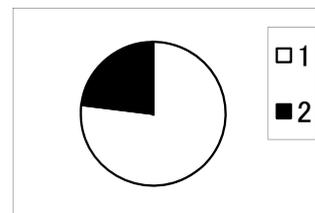
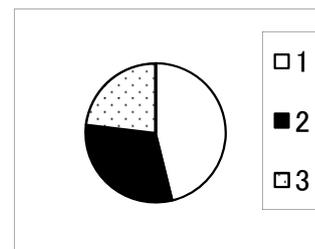
1. そう思う	12	92.3%
2. どちらかといえばそう思う	1	7.7%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	13	100.0%

【2-3】ワークショップは、わかりやすい順序ですすめられていた

1. そう思う	10	76.9%
2. どちらかといえばそう思う	3	23.1%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	13	100.0%

【2-4】ワークショップでよかった点は以下のうちどれですか(複数選択可)

1. シラバスの書き方についての理解が深まった	11	84.6%
2. 「何が学生の学びを促進するのか?」(浅い学習と深い学習)について考える機会を得た	6	46.2%
3. 複数の授業方法について知ることができた	9	69.2%
4. 成績評価についての理解が深まった	10	76.9%
5. クラスデザイン(授業計画書の書き方)について理解が深まった	9	69.2%
6. 自らが開発した授業の良い点・改善点を知ることができた	5	38.5%
7. ワークショップの手法を知ることができた	3	23.1%
8. 他学部等の教員と知り合いになれた	9	69.2%
9. その他	0	0.0%
合計		

【2-5】2-4で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい
・伝えること、伝わっているか確認することの重要性が分かった

【設問3】本ワークショップに参加しての成果についてお答え下さい

【3-1】ワークショップで設定した目標のうち、達成されたのはどれですか<複数選択可>

1. 適切な目的・目標設定ができるようになるようになった	9	69.2%
2. わかりやすいシラバスを書けるようになるようになった	4	30.8%
3. 深い学び・浅い学びについて知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	3	23.1%
4. 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できる	10	76.9%
5. 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	9	69.2%
6. 学生参加型のグループ作業を、自ら授業で導入することができるようになった	3	23.1%
合計		

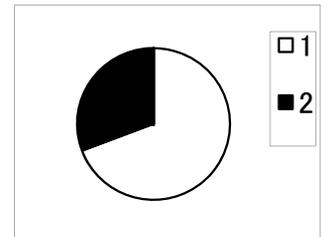
【3-2】ワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書き下さい(200字~400字程度)

→別添資料参照

【設問4】本ワークショップの研修環境についてお答え下さい

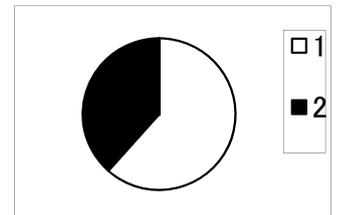
【4-1】講師の言動は学習意欲を高めた

1. そう思う	9	69.2%
2. どちらかといえばそう思う	4	30.8%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	13	100.0%



【4-2】事務局は手際よくワークショップを運営していた

1. そう思う	8	61.5%
2. どちらかといえばそう思う	5	38.5%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	13	100.0%

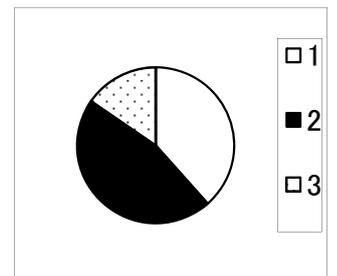


【4-3】ワークショップ会場は快適な環境であった

1. そう思う	5	38.5%
2. どちらかといえばそう思う	6	46.2%
3. どちらかといえばそう思わない	2	15.4%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	13	100.0%

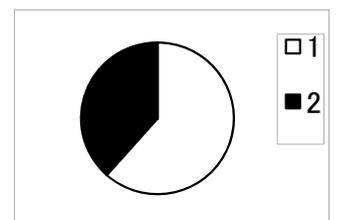
<理由>

3. どちらかといえばそう思わない → 寒かった



【設問5】本ワークショップは全体を通して満足できるものであった

1. そう思う	8	61.5%
2. どちらかといえばそう思う	5	38.5%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	13	100.0%



【設問6】本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい

→別添資料参照

【3-2】 今回のワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書き下さい(200字～400字程度)

ワークショップで学んだ点	教育実践の場でやってみたい点
<p>・シラバスの目的、シラバスで求められている表現方法。 ・複数の授業方法・授業は学生の様子を見ながら進めないといけない。当初準備したように授業が進むとは限らず、その都度微修正する必要がある。学会での発表とは大きく違う点である。 ・小テスト、テストは学生を評価し、評点をつけるためだけでなく、学生に到達目標を示すことによるため、到達目標に見合ったテストを実施する。 ・プレゼンテーションなど、数字で客観的に評価することが難しい場合に、ルーブリック評価法を導入し、客観性をたもつ。それと同時に学生に評価ポイントを知らせることで、到達目標を理解してもらう。</p>	<p>・板書やパワーポイントを使用する場合、学生がノートを取るのにより多くの労力を使う必要がある。講師の話聴くことに集中しにくいいため、レジュメを配布したい。 ・自分でクリッカーを使用してみたい感想として、授業への参加感が高まったため、各学生が授業に参加しているという感覚が得られると思うので、実際に授業でも使ってみたい。 ・ルーブリック評価・やってみようということではなく、気をつけたいこととして、話をするときの姿勢、手の位置を気をつける。</p>
<p>・シラバスの効果的な目的、目標の立て方。例えば、フィールドワークなどどの位置に置くかによって効果が変わってくる。 ・評価は学生の学びを促進するために実施すると言ふこと。ルーブリックの評価方法・学生が学びを深くするためのしかけ。</p>	<p>・ルーブリックを実際に作って活用したい</p>
<p>実際の授業の中での学生への配慮として、授業開始時に目標を提示し、当日の予定などを示すことで、学生の中で流れを掴むことができ、授業に取り組みやすい。また、授業の合間で授業の内容を理解できているか確認を行うことで、学生の理解を知ることができる。次回の授業でミニテストなどを行うことで、復習となり、知識の定着につながる。学生の反応を見ながら、理解できているか確認をしていくことで、表情や動きなどから、理解が不足しているようであれば、説明に事例などを組み込み補っていく。また、一方的なレクチャーにならないように、教室を広く使いつつ、学生との意見交換(思考の確認)を行っていく。その中で出てきた内容を組み込みながら、授業をすすめて行く。授業のコース設定を行う上で、到達目標を明確に提示することで、学生が学ぶべき内容が明らかになる。そうすることで、課題やテストの内容なども明らかになり、双方に共通理解の下にコースがデザインできる。</p>	<p>3回生の授業を担当したときには、知識の伝達のみ集中してしまい学生の反応や全体を見る事ができていなかった。次回の機会では、一方的な知識の伝達のみではなく、問いかけながら、参加を促し、学生の反応をみて、理解が不十分であれば、実際の臨床の場面など、学生が想像しやすい場面を提供する。また、授業開始時に目標を提示し、授業の中盤などでも、いまからどの目標に対しての内容を話すのかを、スライドなどで提示しながら、学生が流れを掴めるように配慮していく。終盤にはその日の授業の内容を集約したスライドを準備し(学生には配布せずに)、重要な内容が理解できるようにしていく。90分の授業の中で、緩急をつけることができるように、グループワークなども取り入れながら、学生の理解や考えなどを受け取り、その内容を踏まえたと上で授業を構成できるように、授業の中で伝えておくべき内容、自己学習でも習得可能な内容を分けて整理しておく。</p>
<p>学生に何を学んで欲しいかを明らかにしてうえで目標の設定を考えることや正しい書き方でかけるようになりたい。ゴールに到達できるようにするには、どうしたら達成できるのか順序立てて考えることの重要性を学んだ。また、学生をあきさせない、引き込むような授業ができるように計画し実践できるように頑張りたい。</p>	<p>ミニ授業で、自分が自身をもって話せるようになるためには練習や自分のくせを知ること、視線の持っていき方など勉強になった。今後は以下の2点を行っていききたい。①学生の集中力の保たせるための授業デザインを心がける②学生の意見を聞いた後に時間を気にして焦ってしまうので、ゆっくり振り返り整理する時間を学生に持たせるようにする</p>
<p>ワークショップに参加して、常に聴く側(学生側)に立ち、いかに学生の学習を促進させるかを考えることの大切さを学んだ。実際の授業では学生の立場に配慮しているが、とかく時間内に学習内容を伝えようと思うと、教員側の都合で授業をすすめてしまいがちなので、それはいけないことを改めて実感することができた。また、学生の学びの過程をイメージし、どうしたら積極的に学んでもらえるかを模索するという点では、学生の立場にたった「やさしさ」が根底にあるように思った。最後の模擬授業では、「学生の発言に対しては常に肯定的な姿勢で受け止めることが大事」という小林先生のお言葉がとても心に沁みました。自分の授業を採点される経験というのは、これまでなかったもので非常に有意義でした。自分のよさや改善点を知ることができ、大変勉強になりました。</p>	<p>バズ・セッション、Think,Pair & Share</p>

ワークショップで学んだ点	教育実践の場でやってみたい点
<p>医学部の授業は伝えなければいけない知識が多く、どうしても講義で一方的に話すだけになると思っていたし、自分もそういう授業しかほとんど受けていなかったが、今回ワークショップに参加して、さまざまな授業方法があり、1コマの中でもメリハリのある構成を心掛けることで、学生の学びを促進できるとことを学びました。</p>	<p>アイスブレークの方法や、効果的な質問をすることで空気を和やかにしたり、学生の注意をひきつけるなどをしてみたいです。</p>
<p>学生に受け入れられる授業を大学で行うに当たっての、ベーシックなノウハウを短時間で理解できる非常に有意義な研修でした。構成メンバーにも恵まれ、シラバスを作成していくにつれ、とても活発な議論が行える雰囲気が出てきました。シラバスを作成する場面では、目的や目標の設定が非常に重要で、15回で学生の皆さんが「学び」を実感できる授業の構築のフレームワークを少し実感できたのは大きかったです。また、実際のミニ授業を行った時には、計画を実際に行うむずかしさを実感しました。良い計画があっても、それを実際に行えるスキルが無いと、十分に学生さんには伝えきれないだろうと実感できました。しっかりとPDCAサイクルの構築が必要だと再確認でした。</p>	<p>講師にご指摘いただいた、質問の工夫は私にとって早急に対応すべき点だと思えます。質問に対する、目的・対象・伝え方、のプランを持って学生に対応することが重要であり、すぐにやってみようと思います。</p>
<p>今学期私が担当している授業は80人ないし200人程度の大規模な講義である。授業の最初に先週の復習やコメントシートで受けた質問に対する回答を行い、授業の最後に授業のまとめやコメントシートへの書き込みなどの時間をとっているが、その間の60分以上の間は講義を続けており、その間、受身に情報を摂取する学生の集中力の低下を懸念していた。そのため、今回のワークショップでは、クリッカーなどの小道具を用いた学生の参加の手法に特に関心を持った。これらの小道具を活用し、学生により授業に積極的に参加させることができると考えている。</p>	<p>1) クリッカーなどの小道具を用いた学生の参加の手法 2) (既に授業最後に利用している)コメントシートを用いて、理解度を確認・促進するためのミニテスト</p>
<p>一言で講義と言っても、様々な授業方法があることを学ぶことができました。自分自身は比較的少人数で講義を受けることが多かったのですが、規模に応じて授業方法にも違いをもたせざるを得ないことを理解することができました。また、自分自身が積極的に意見をすることが苦手であり、これまであまり指名をして発言してもらったことがなかったのですが、そのような学生にも積極的に発言を促せる方法 (think, pair, share) があることを知ったので、学生の講義への積極的参加を促す意味でも実践してみたいと思いました。また、普段講義内容でなく授業自体に注目することはなかったもので、その視点から自分も興味をひかれる先生方の視線の運び方や動作を体感することでき、是非自分でもやってみてみたいと思いました。</p>	<p>これまであまり十分には学生の反応に注意を払ってきいていなかったが、学生の反応を見ながら、それにあわせて授業を進めていくことを意識してみようと思った。 ・授業で話す際には、疑問を提示するなどして、まず学生の興味・関心を引き起こした上で、丁寧な話し方で、適切な間をとりながら、話をしようと思った。</p>
<p>・授業を行う際の立ち居振る舞い、話し方、間の取り方など、教員の存在のすべてが授業を演出する上でのツールになりうるということを学んだ。 ・これまで自分が無意識に行っていたことで、授業を行う際に有益であると思われることについて、きちんと理論化することができた。</p>	<p>・これまであまり十分には学生の反応に注意を払ってきいていなかったが、学生の反応を見ながら、それにあわせて授業を進めていくことを意識してみようと思った。 ・授業で話す際には、疑問を提示するなどして、まず学生の興味・関心を引き起こした上で、丁寧な話し方で、適切な間をとりながら、話をしようと思った。</p>
<p>授業には、講義だけでなくグループワークやビデオ視聴などいくつかの形態があり、これらを組み合わせることで学生の学習効果が高まることを学んだ。今回のワークショップでは、学生の意思表示ツールであるクリッカーや、Think, Pair&Shareやジグソー法などこれまで知らなかったツールや授業の形態を学ぶことができた。評価方法では、ルーブリック評価法を学び、評価法に対する疑問の解決になった。</p>	<p>教育実践の場では以下の点を実施してみたい。 ・グループワークやビデオ視聴などを組み合わせた授業デザイン ・クリッカーを用いた授業 ・ルーブリック手法による評価 ・学生による授業評価</p>
<p>伝えることだけでなく、伝わっているか確認することの重要性、難しさがよく分かりました。特にミニ授業を実体験したことで、「伝わっているか確認する」意識が自分にまだ足りないことが客観的に認識できました。また、伝えたい内容(授業)の、意図・目的や構成・利用手法・手順を整理することの難しさもよく分かりました。</p>	<p>教える側と教えられる側が双方向でコミュニケーションし、双方の気づきが新たな次の展開を生み出すような、ダイナミックな「伝える」場の創出。</p>

【設問6】 本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい

チームのワークのみであったので、他のチームの先生方も、または全体で取り組むワークショップがあれば良かったかと思えます。
久万高原で今回のワークショップを行う意味が最後まで掴めませんでした。講師の先生方、職員の方々、参加者、それぞれの負担を考えても、あまり移動時間がかかからない場所のほうがいいように思います。参加者の方々の模擬授業を聞けたことは大変勉強になりました。欲を言えば、講師の先生方に、同じテーマの講義をしていたら、どのような講義がより自分にフィットするのかわかるとかを実感できればさらに面白くなるように思います。
少人数だったので講師の方をはじめ、疑問を質問したり意見を言いやすかったです。
<ul style="list-style-type: none">・昨年12/24のアクティブ・ラーニング入門セミナーに参加したが、その内容と重なる内容があったので、もう少し工夫があるといい。・宿泊施設にドライヤーがなかったが、実施要綱にはそのことが記載されていなかった。事前に教えていただけると助かります。・大学では、パワーポイントを用いた授業運営がほとんどです。教育学部なので、黒板で板書する方がいいのかもしれないのですが、パワーポイントをうまく使う方法を教えていただけると参考になります(色使い、アニメーションの用途、文字の量など)。
お世話になりました。自分を向上させられる環境をいただけるとてもよかったです。ありがとうございました。
ありがとうございました。
事前に思っていたよりも多くのことを学ぶことができました。ありがとうございました。
2日間みっちり、授業を行う上での有益な知識や技術を学ぶことができ、大変勉強になりました。どうもありがとうございました。
ワークショップでは大変お世話になりました。 以下に改善点等の意見を記します。 <ul style="list-style-type: none">・学内の駐車場の案内を早く送る。(今回は前日の夕方に受け取りました)・持参用具にドライヤーを付け加える。・宿泊施設でガスの開栓方法を連絡する。(お風呂場でお湯が出ず寒い思いをされた方がいました)
細かいところですが導入部分で2点ほど。教材(貸与)を賞品(贈与)と称するのは違和感があります。そこまで言わなくても、皆受け入れられると思います。あと、得点がスピードだけで与えられていましたが、出来の相手の拍手の度合いも加味するとか、もう少し幅が合っても良かったかも。それ以外は、良かったです。

第23回授業デザインワークショップ事後アンケート結果

参加者数:19名

回答者数:19名

開催日時/場所:平成26年9月1日(月)~3日(水)/愛媛大学城北キャンパス

所属先

:4年制大学18名, 短期大学1名

設置形態別

:国立13名, 私立6名

【設問1】本ワークショップの参加の経緯についてお答え下さい

【1-1】ワークショップへの参加動機は何ですか<複数選択可>

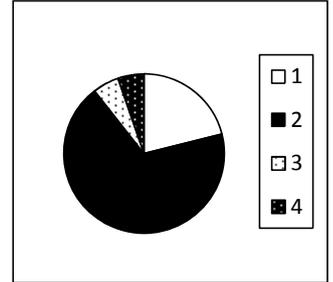
1. 実施要項を見て内容に興味をもったため	3	15.8%
2. 所属部署からの依頼があったため	6	31.6%
3. 他大学・他部署の人と交流したため	1	5.3%
4. 新任研修に参加して興味をもったため	4	21.1%
5. テニユア・トラック必須EDプログラムだから	6	31.6%
6. その他	1	5.3%
合計		

【1-2】1-1で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい

FD委員会より、新任は参加するようにとのことであった。

【1-3】ワークショップの目的や内容について、ある程度知った上で参加した

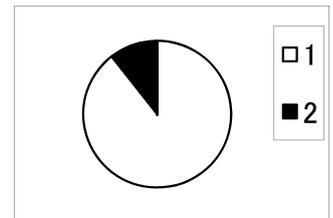
1. そうである	4	21.1%
2. どちらかといえばそうである	13	68.4%
3. どちらかといえばそうではない	1	5.3%
4. そうではない	1	5.3%
合計	19	100.0%



【設問2】本ワークショップの内容についてお答え下さい

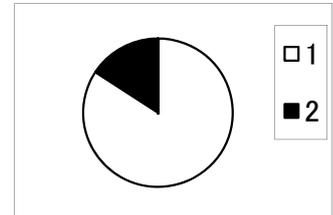
【2-1】ワークショップの目的は、明確に設定されていた

1. そう思う	17	89.5%
2. どちらかといえばそう思う	2	10.5%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	19	100.0%



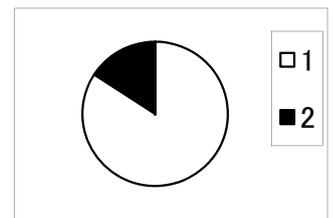
【2-2】ワークショップは、自分の業務(教育実践)に生かせる内容であった

1. そう思う	16	84.2%
2. どちらかといえばそう思う	3	15.8%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	19	100.0%



【2-3】ワークショップは、わかりやすい順序ですすめられていた

1. そう思う	16	84.2%
2. どちらかといえばそう思う	3	15.8%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	19	100.0%



【2-4】ワークショップでよかった点は以下のうちどれですか<複数選択可>

1. シラバスの書き方についての理解が深まった	16	84.2%
2. 「何が学生の学びを促進するのか？」(浅い学習と深い学習)について考える機会を得た	7	36.8%
3. 複数の授業方法について知ることができた	16	84.2%
4. 成績評価についての理解が深まった	12	63.2%
5. クラスデザイン(授業計画書の書き方)について理解が深まった	11	57.9%
6. 自らが開発した授業の良い点・改善点を知ることができた	5	26.3%
7. ワークショップの手法を知ることができた	8	42.1%
8. 他学部等の教員と知り合いになれた	14	73.7%
9. その他	0	0.0%
合計		

【2-5】2-4で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい

【設問3】本ワークショップに参加しての成果についてお答え下さい

【3-1】ワークショップで設定した目標のうち、達成されたのはどれですか<複数選択可>

1. 適切な目的・目標設定ができるようになるようになった	16	84.2%
2. わかりやすいシラバスを書けるようになるようになった	13	68.4%
3. 深い学び・浅い学びについて知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	4	21.1%
4. 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できる	15	78.9%
5. 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	11	57.9%
6. 学生参加型のグループ作業を、自ら授業で導入することができるようになった	5	26.3%
合計		

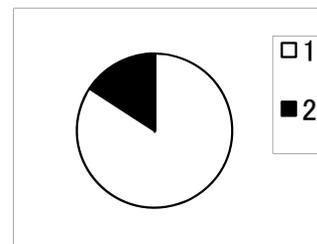
【3-2】ワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書き下さい(200字～400字程度)

→別添資料参照

【設問4】本ワークショップの研修環境についてお答え下さい

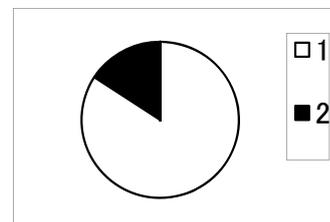
【4-1】講師の言動は学習意欲を高めた

1. そう思う	16	84.2%
2. どちらかといえばそう思う	3	15.8%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	19	100.0%



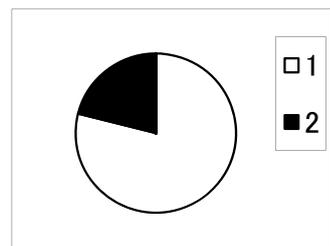
【4-2】事務局は手際よくワークショップを運営していた

1. そう思う	16	84.2%
2. どちらかといえばそう思う	3	15.8%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	19	100.0%



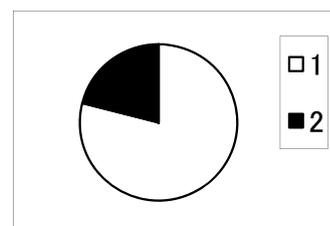
【4-3】ワークショップ会場は快適な環境であった

1. そう思う	15	78.9%
2. どちらかといえばそう思う	4	21.1%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	19	100.0%



【設問5】本ワークショップは全体を通して満足できるものであった

1. そう思う	15	78.9%
2. どちらかといえばそう思う	4	21.1%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	19	100.0%



【設問6】本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい

→別添資料参照

【3-2】 今回のワーキングショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみてみたい点などをお書き下さい(200字～400字程度)

ワーキングショップで学んだ点	教育実践の場でやってみてみたい点
<p>授業デザインのかなかで目新しいと感じるものはあまりなかったが、改めて考えて考える機会があり、他者と話したことにより深く理解できた。</p>	<p>これまで行ってきた授業について、目的・目標とそれに対する評価を見直し、これまでの授業計画を変更しようと思った。</p>
<p>様々な授業方法があり、それぞれがどのような場面で有効か知ることができた。シラバスの、目的、目標の書き方とそれらに対応した評価方法の設定の仕方を学んだ。</p>	<p>ミニッツペーパーはぜひ導入したい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 授業中の教員と学生とのコミュニケーションのさまざまな取り方(クリッカー、ペアワークなど) シラバスの書き方(目的と目標の書き方、多様な評価の仕方、積み上げ方、自分のその授業に対するポリシーの書き方) 多様な評価方法 	<ul style="list-style-type: none"> クリッカーを使ったコミュニケーションや確認・授業の目的 目標について関係性を含めて具体的に解説する。この解説を15回終わったときにも繰り返して、最初の目標が達成されているかどうか学生自身に判断してもらう機会を持つ 授業のキーとなる言葉や概念は、2-6-2の下の2にあわせて丁寧に説明する。
<p>明確な目的/目標を設定し、それに応じた成績評価を設定することがコースデザイン、授業計画を策定する際に非常に重要であること。</p>	<p>大人数教室のクラスで、Think, Pair & Shareを実践しようと思います。</p>
<p>これまで自分がしてきた授業は「講義」という、一つの手法にすぎませんでした。他にもいろいろな学生との双方向型の授業方法を知り、すぐに応用したくなりました。また、シラバス、目的と目標、評価の重要性など、これまで意識したことのない内容が多く新鮮でした。ワーキングショップ形式だったので身をもって体験できました。合宿のような日程で少々疲れましたが、身につくことも身をもって知りました。</p>	<p>学生のリアルタイムの反応を確認する手法です。クリッカーや反応カードは試してみたいです。また、評価をまじめに(?)行いたいです。最終テストだけでなく、到達目標を一つ一つクリアできているかを意識した評価を実践したいと考えます。</p>
<p>共通教育で求められる授業について意識を変える必要があると思った。大学は、学生が主体的に勉強する場であり、教育する側は自らの知識を必要に応じて提供する、という程度の認識であったが、より普遍的に学生に学んでもらうために、様々な配慮を行い、授業計画を立てていくことが今後大学教員に求められていることを強く認識することができた。また、積極的に様々な授業形式を用いて、行くことが学生の興味を引く上で大切であり、その手法を学ぶこともできた。</p>	<p>REASは早速、授業前の事前知識評価や、授業後の振り返りに使えるようにしたいと思う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 形成的評価の具体的な進め方 複数名の教員で1つの授業を作り上げることの難しさ 	<p>様々なグループワークの技法を学んだが、未だ実践したことのないものも多くあったため、今後実際に用いてみたいと思います。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業を設計する流れ：授業の企画から実行まで、授業を無事に遂行できるようフローがよくわかりました。 2. シラバスの書き方：授業の内容を学生に分かりやすく伝え、学生に対して円滑に指導を進められるため、授業の内容、目的、目標及び成績評価などを明確に書ければならない。また、授業の目的、到達目標に適用する動詞の使い方が分かりました。 3. 様々な授業方法を知る学生デザイナープランニングを促すため、クリッカー、ペア、リーダーディング、ワーキングショップなど様々な授業方法があることを知りました。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. クリッカーを使ってみたい。 2. ポスターセッションを設けて、学生がグループに課題を課し、成果はグループメンバーの全員で発表する。

ワークシヨップで学んだ点	教育実践の場でやってみていた点
<p>1) シラバスの重要性を学んだ。 2) 様々な講義形式があることを知った。 3) クリッカーなどの講義のつかみの重要性を知った。 4) 授業計画をすることで講義で何を伝えるべきなのかをはっきりさせることができる が明らかになった。</p>	<p>1) グループワーク 2) シラバスの評価方法の明瞭化 3) 授業計画の作成</p>
<p>能動的な学習方法の多様性を学ぶことができた。特にグループワークを通じて行った授業デザインやその議論は、相反する意見が出て平行線になるなど、一進一退があったが、結果的には授業デザインのコンセプトを明確にし、それを実践するための過程をワークシヨップ内での短い時間の中で凝縮して経験することができた。またこの経験がシラバスの効果的な作成に通じることも確信した。ただ、私自身は研究発表や専門講座などの講演は前職場で慣れていたもの、共通教育など、多様な学生を想定した講義はまだ未経験。ワークシヨップで学んだことを活かし、経験を積み、良い授業ワークができるようにしたい。</p>	<p>ワークシヨップを受ける前から関心があったのは質問法である。それは前職場(県の教育行政での生涯学習)で愛媛県美術館の学芸員が講演で行ったVTS(Visual Thinking Strategy)に感銘を受けたからである。質問法には、緻密な授業デザインと高度な知識と熟練した話術などが必要であることを痛感した。それでも質問法を取り入れていきたい。またTHink, Pair&Shareやクリッカーなどが有効であると感じた。専門が考古学であることからフィードバックも実践していきたい。</p>
<p>授業における様々なアクティブラーニング手法について、有効なケースについて学ぶことができた。</p>	<p>これらの手法を、実際の教育現場で効果的な運用を行いたい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの記載方法(特に目的、目標、評価)について理解することができた ・90分間の授業構成の方法について理解が深まった ・ワークシヨップの手法に関する理解が深まった 	
<p>コース設計やクラス設計では、どんなステップで科目全体を考え、1回の授業をデザインするのかをイメージすることができた。また、シラバス作成上何を記載すべきか、目的や到達目標の表記の仕方或使用語句などの留意点を確認することができた。授業の流れの中で学生の理解度を測りながら、授業を進めていく評価方法や手法を学んだ。</p>	<p>共通教育科目の開発には、教員自身のスキルアップが必須で、それが効果的な授業デザインに通じると実感したので、ぜひ今回の改善点を意識し、スキルアップをしていきたい。</p>
<p>授業の目的、目標、及び評価とのつながりから、シラバスの立て方、書き方が理解できました。そして改めて、当たり前のことですが、授業の中身についての質の高さを保つためには、自分自身の更なる勉強と探究が不可欠だと感じました。</p>	<p>これからやってみてみたいことは、授業初回の学生とのコントラクトをきちんととることです。また、文献を学生にどう読ませるかや、講義をいかに聞かせるかにも苦勞してあります。15分の集中と確認テストやアクティビティ、そしてまた15分の集中を試してみたいと思います。また、授業外時間の学習への導き方をもっと工夫してみたいと思います。</p>
<p>シラバスを詳しく書くようになったことは知っていたし、5年以上教えているし、一番知っていたルーブリックやアクティブラーニングのことは、別の研修で受けたし、と思って参加したが、いろいろな学びがあって、何よりもグループの方たちに恵まれて、非常に有意義な時間を過ごすことが出来た。皆さんと作ったシラバスは、ずっと大切にしようと思う。</p>	<p>文章がなかなか続かない学生が多いと、レポートの課題を出しても採点することが出来ず困ってしまうため、ほとんどレポート課題を課してこなかったが、教わった技法を用いながら、レポート課題を課してみようと思った。また、クリッカーはゲーム感覚で参加できるの、あると授業に参加しやすいと思った。「隣と意見交換」は、ただの雑談になつたり、寝てしまっている学生をどうしようかなど、なかなか実践までに心配事が多いが、チャレンジしてみようと思った。</p>

ワーキングショップで学んだ点	教育実践の場でやってみたい点
<p>授業計画について、これまで演習に関する授業以外は毎回の受講生の様子をみて、その度に進度を調整していました。今回は毎回の目標をしっかりと立てて進めていく楽しさを学んだので、一回ごとの授業を更に作りこんでいきたいと思いました。</p>	<p>特に講義で用いる手法と、成績評価方法についての学びが多くありました。成績評価方法では出席、レポート提出、定期試験の単純な構成で行っていたため、多様な角度での評価について考えさせられました。</p>
<p>「シラバス作成段階から授業が始まっている」ことを痛感しました。学生が授業に取り組む為の「目的」と、教員が求める「到達目標」さらには「学習評価」をわかりやすい言葉で明確に伝えることが学習への動機づけにつながり、意欲として現れることを知りました。シラバスを作った経験がないので、その辺りを配慮できればと考えています。</p>	<p>学生目線になって授業デザインをしなければ、いつまでも学ぶ意欲が上がらないので、前学期を振り返って新鮮な気持ちで取り組み努力をしていきます。</p>
<p>これまでは漠然と自身の経験に基づくオリジナル方式で授業をデザインしたり、シラバスを作成したりしていた。今回の研修に参加し、様々な手法や授業をデザインしていろいろで有益なポイントや視点を数多く学ぶことができた。</p>	<p>3日間と限られた時間ではあったものの、これまでの自己の授業を改めて見つめ直す良い機会になったと同時に、学んだ手法や視点を充分に活かし、より良い授業が展開できるようにしたいと思います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・授業デザインをすすめる際に、カリキュラム上の位置づけに十分に留意して、その科目の目的・役割が明確になるようにする。 ・シラバスはできるだけだけ明確に。とくに到達目標は、学生にとって具体的に実現可能なものとし、かつ教員にとって評価可能な指標をもったものとする。 ・ただしアクティブラーニングの手法は教育手段の一つであることを常に念頭に置き、それが目的化してしまわないように、各科目で最適な教育手法を実践できることが重要なのだと思われた。今日において「教学マネジメント」が強く要請される理由も、カリキュラムの組織的デザインが重要であり、それにもとづいて各科目の教育手法を検討すべきであるということと深く関連するためだと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クリッカ一等の最新の教材を積極的に導入・活用するように努める。 ・ルーブリック等の学生のパフォーマンス評価を容易とする教育法の開発・導入を試みる。

【設問6】本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい

話し方講座のようなものがあればまた参加したいです。3日間ありがとうございました。

教育法とシラバスの書き方を一緒に学ぶ方法としてグループワークでシラバス、授業計画案を作成するというのは効果的。ただ、「いいワークショップだったな」と思っている人は多いが、それを自分の授業に反映するためには、もう一ステップ必要かなとも思います(時間との兼ね合いで、最後に実践したい点としてコミットメントさせることになっているとは思いますが)。もう少し時間があれば、自分が今受け持っているシラバスを書き直して、それを添削してもらえたらワークショップで習ったことが即、実際のシラバス、講義、評価へと反映できそう。(これを書いている続きで書き直せばいいのは分かっているのだが。。)

シラバスの中間発表時におけるコメント/意見交換が不十分に感じました。特に、テーマに依存するコース設計の問題点と、目的、目標の設定に応じた計画の問題点を区別して議論する必要があると感じました。また、模擬授業においては、どのようなテーマであれアクティブラーニングの手法を適宜取り入れることで学習者の理解度を向上させることができるという感覚を養うためには、テーマ設定が難しいと思いました。共通教育の枠組みのなかで、テーマや対象とする学習者に配慮したアクティブラーニング導入の利点/欠点のまとめが必要と思いました。

最後に、限られた時間でアクティブディープに繋がる学習(集中力の継続)がうまく挿入されており、学習者にとっては実は負担の大きい手法が多いのではと感じました。しかし、こうした講義法により学習者のパッシングディープな学びを継続的に促すことができれば、より効果は大きいと思います。

スタッフの皆様、準備を含めてありがとうございました。楽しく、学びながら3日間を過ごせました。

最初に設定されたグループのメンバー以外とも共同で作業するシーンがあれば、より教員同士のコミュニケーションが促進され、最後の模擬授業の際に効果的なフィードバックが行われるのではないかと思います。最後に、多大な労力を割って運営にあたってくださった先生方、職員の皆様から御礼申し上げます。

私のような初心者にとって、大変助かると思います。教育法についてもっと知りたいので、今度ぜひ参加させていただきたいと思えます。

機会があればまた参加したい。

・ワークショップの最後に模擬授業が位置付けられ、少人数ではあったが、教員が相互に授業の一端を見せ合うことは、意義深いものがあった。

・模擬授業は、「共通教育科目」の授業を設計することであったが、「共通教育科目」に関する認識が十分でなかったため、与えられたテーマを意識しすぎたせいもあり、授業設計がやや形式的になり、自分たちのグループでは、模擬授業で実施できる場面で限定されてしまう傾向にあった。テーマ自体も自由に設定できれば、グループのメンバーがもう少し得意な部分で模擬授業を行うことができたのではないかと感じた。

・非常に意義深いワークショップでした。どうもありがとうございました。

他大学の方や愛媛大学の他学部や他の所属の方と知り合う機会となり、大変感謝しています。グループワークで自然とお互いを知り合うことができるので、他の方の授業に対する考え方や進め方などを知ることができ、とても参考になりました。

また、模擬授業で具体的に改善点を示していただいたことは、今後の教育実践の中で活かしていきたいと思えます。3日間ありがとうございました。

三日間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

秋から、愛媛大学が中心でやられているアーバンデザインセンターのデザインスクールにて、ワークショップファシリテーターの養成のような事業に関わらせていただくことになっております。誠に勝手ながら、そのためのプログラムデザインを試させていただいておりました。講師の先生方はじめ、いろいろな分野の若い先生方のご意見を伺うことができ、大変勉強になりました。ありがとうございました。どうぞ今後とも、宜しく願っています。

お世話になりました。改善点は見当たりませんが、準備をこれでもかというくらいしなければ、不安が多すぎて講義の授業ができないのですが、30分程度の準備で専門ではない分野の模擬授業をするという恐怖の体験をさせていただき、感謝しています。人前で話すときに、最も気をつけていることを、模擬授業の感想として皆さんから言って頂いて、少し安心しました。同じ条件で、果たして他の方はどのような授業をされるのか興味深く見せて頂きましたが、非常に勉強になりました。

学生の個別相談をする際に「わかりにくい授業とかってある？」ということを知ることができ、「ずっと話ばかりしている」「黒板にメモだけ書く」などの声を聞くことが多く、自分が大学の頃に受けていた授業では伝わらないことを痛感していました。実際にアクティブラーニングの授業を体験して、ちょっとしたアトラクションが入ると、確かに自分で授業内容を組み立てて理解しなくても、一塊のブロックのようにまとまる感覚がしました。まずはアクティブラーニングを自分のものに出るようになりたいと思います。

気がかりだったのは、昔ながらの授業をされている先生で、研修に参加されない非常勤の先生などは、知る機会がないのではないかと。私も今回の研修を受けていなかったらと思うと、少々ぞっとします。素晴らしい研修をありがとうございます。

今回は「学生のため」の授業づくりを学ばせていただいたと感じています。ありがとうございます。 私が勉強不足や先生方の説明をしっかりと聞いていなかったことが原因ですが、模擬授業で指摘をいただくまで、授業名も教員が決められることを理解していませんでした。

今後の希望としては、今回は愛媛大学の学生を対象に模擬シラバス・授業計画を作成してきましたが、昨今の私立大学の学生の学力を反映した授業手法等も学んでみたいと思います。

3日間ではありましたが、多くの学びを得たワークショップでした。また、様々な業務等と日程が重なった中での参加だったので、特に初日はウトウトしてしまいうこともあり失礼しました。 今後も愛媛・四国で教員として踏ん張っていきたく思いますので、引き続きご指導をいただければ幸いです。

ワークショップへの準備性の高さに驚き、フレンドリーな雰囲気、豊かな時間の流れを堪能しました。自分自身が一学生に戻り、「こんな授業を受けたい！」と切実に感じました。「授業デザイン」と口にするのは簡単ですが、すぐに実践することは難しいかもしれません。1つでもできることから始めていきます。 3日間本当にお世話になりました。感謝の気持ちで一杯です。どうもありがとうございます。

3日間、ありがとうございます。また参加したいと思えます。

平成26年度「授業設計ワークショップ」アンケート集計結果(回答数: 29名) 6月28日~29日開催

問番号	回答項目	大学	短期大学	高等専門学校	その他	未解答	合計
1-(1)	所属先	28	0	1	0	0	29

問番号	回答項目	国(国立大学法人)	地方自治体(公立大学法人を含む)	学校法人	その他	未解答	合計
1-(2)	所属先の設置者	22	6	1	0	0	29

1-(3)自由記述	現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。	※下記に記述
-----------	----------------------------------	--------

2.参加への経緯について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
2-1	授業設計ワークショップの目的や内容についてある程度知った上で参加した	4	14	7	4	0	29
2-2	自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した	3	10	13	3	0	29
2-3	授業設計ワークショップの内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した	4	6	13	6	0	29

3.プログラムの設計について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
3-1	授業設計ワークショップの目的は明確に設定されていた	20	7	1	1	0	29
3-2	授業設計ワークショップは自分の業務に生かせる内容だった	18	8	2	1	0	29
3-3	授業設計ワークショップはわかりやすい順序ですすすめられた	15	10	3	1	0	29
3-4	授業設計ワークショップの時間は目的を達成するために丁度よい長さだった	8	11	6	4	0	29
3-5	授業設計ワークショップの実施時期は適当だった	11	11	4	3	0	29
3-6	参加者の人数は適当だった	17	7	4	1	0	29

4.講師について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
4-1	講師の言動は学習意欲を高めた	17	9	2	1	0	29
4-2	講師は研修に必要な知識を十分に持っていた	19	8	1	1	0	29
4-3	講師の用意した教材はわかりやすかった	15	11	2	1	0	29

5.研修の会場・スタッフについて		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
5-1	授業設計ワークショップ会場は快適な環境だった	18	9	1	1	0	29
5-2	授業設計ワークショップ会場には十分な設備が整っていた	19	8	1	1	0	29
5-3	スタッフは手際よく研修を運営していた	21	6	1	1	0	29

6.授業設計ワークショップについて		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
6-1	自分に必要な知識やスキルを身につけることができた	9	16	3	1	0	29
6-2	受講したことによって教育への取り組み方が改善されると思う	14	13	1	1	0	29
6-3	新たに人的なつながりをつくることができた	10	16	2	1	0	29

7.授業設計ワークショップ全体について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
7-1	授業設計ワークショップは全体的に満足できるものだった	16	11	1	1	0	29
7-2	授業設計ワークショップは期待を上回る内容だった	16	11	1	1	0	29
7-3	今後も、授業設計ワークショップを継続していきべきだと思う	11	15	2	1	0	29

自由記述	「授業設計ワークショップ」に参加してよかったと思われる点を、具体的にお書き下さい。	※下記に記述					
	このプログラムをよりよいものにするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。						
	その他、お気づきの点があればご記入ください。	※下記に記述					

1-(3)自由記述	現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。
2	・講義法 ・シラバス作成法
3	・アクティブラーニングの導入 ・学生の視点や学習環境, 習慣を考慮した授業設計
6	授業の準備のための時間を作るスキル
7	授業設計全体
8	講座準備, くみため, 方法などについての方法論
9	学生の主体的参加を促すスキル
10	対面スキル
12	(学生の)心理学
14	授業設計スキル, 設計した授業内容/実際の授業の改善スキル(知識, 手法など)
15	学生の理解度を向上させるための授業方法
16	・他学科の先生とお話し, 情報交換できて良かった。 ・今後のFDも積極的に参加しようと思う。 今回, とても参加になる講義は多かった。
17	・講義スキルの向上 ・PBLのマネジメント
18	より高度な専門知識
19	授業設計, 授業開発
20	授業の展開法, 英語力
21	学生と積極的, 効果的にコミュニケーションをとりながら講義をするという事
22	雑用を断るスキル
24	・テンポよく活かすこと。 ・学生の参加を促す手法
26	話し方
27	スライドの作り方など
28	学生が眠らずに授業を聞く事ような授業の提示
29	授業におけるアクティブラーニングの導入

自由記述	「授業設計ワークショップ」に参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。
1	頭の中が整理できた
2	色々な授業法を知ることができた。他の先生の授業を見る事ができた。
3	正直, 授業設計にさほど興味なく参加してしまった(義務的に)が, 想像以上の内容で, 授業に対する認識も教育に対する考えも改める所があった。
5	これまでに実施していた授業の内容, 実施方法等々見直す機会になりました。内省を続けていかなければいけないと思いました。
6	様々な授業方法を学ぶことができた点。
7	他の先生がどうやって授業に工夫しているかがわかり, 参考にしたいと思いました。
8	学生主体の学びに対しての具体的な方法を学ぶことができた。また, 他の方法の接近授業を見る事ができて良かった。

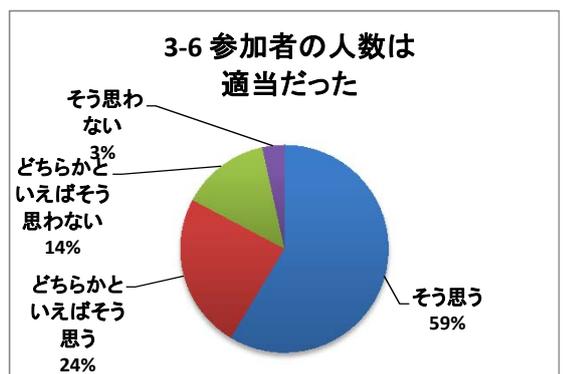
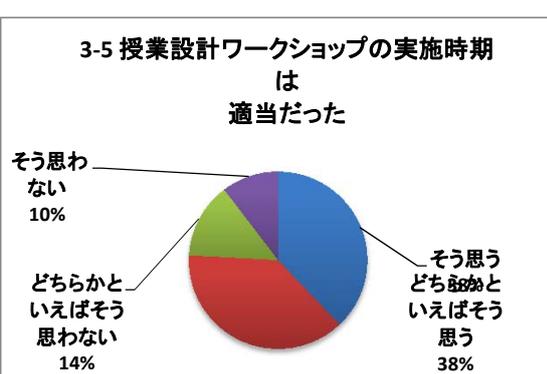
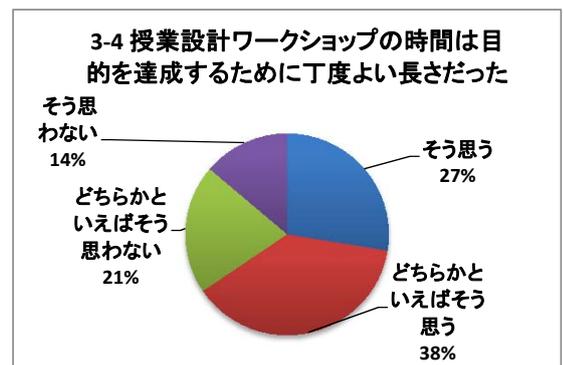
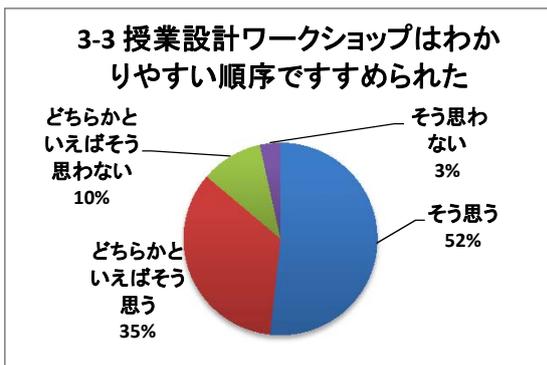
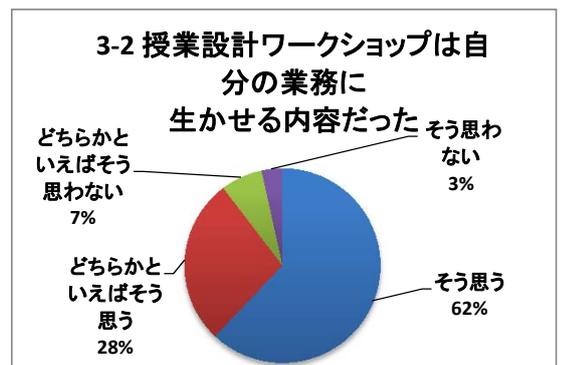
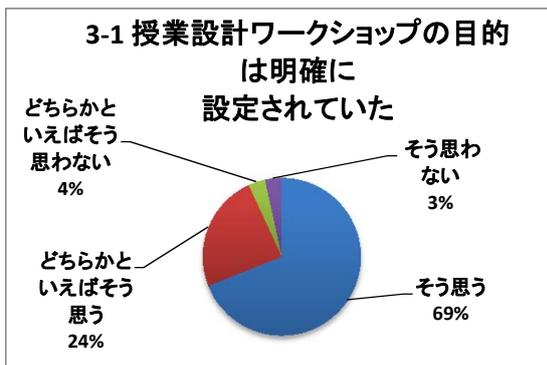
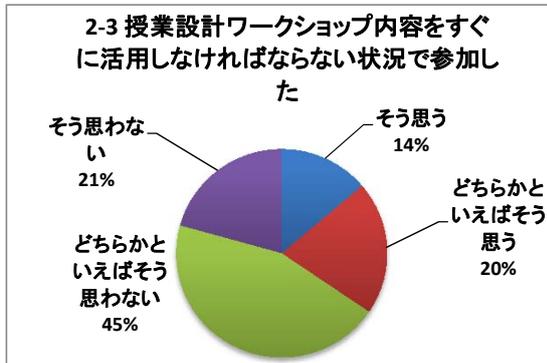
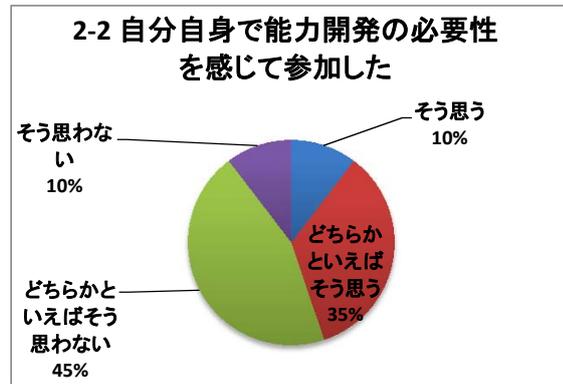
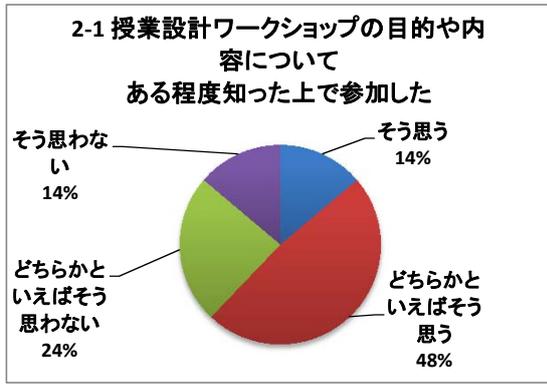
自由記述	「授業設計ワークショップ」に参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。
9	他分野の先生の講義は良い刺激を与えてくれた。
10	他の先生に評価していただいたこと。
11	・充実した研修内容で授業設計の重要性を非常によく実感させられた。 ・模擬授業の際のチェックシート記入方法を、単にチェックを入れる方式ではなく、(できている/ふつう/改善の余地あり)といった形式で記入できるようにしてほしい。
12	異なる視点のアドバイスをしていただいた。
13	初日の理論—勉強になりました。 2日目の模擬授業—よい経験になりました。
14	自分の授業でも改善できる工夫をいくつか得ることができた。 また今後授業の内容、手法を改善していくための課題を得ることが出来、「大きな宿題」を頂いたと認識しています。
15	理系の講義にも利用できそうな具体的手法が見えてきた。 普段接点のない文系の先生の授業を見る事ができたのが面白かった。
17	学生に学ばせるためのスキルをいくつか習得できた。
18	考え方の違いを客観的に受け入れることの重要性を改めて認識できました。
19	KOLBの学習理論に関する説明、授業開発の方式は役に立てられそうな気がしている。
20	坂田先生の授業はとても参考になった。
21	・アクティブラーニングのための各種技術を知った事。 ・他分野の先生方からの見解を得られた事。
22	なし
23	他分野の授業を見る事ができた。
26	夏休みに行ってほしい。 1年目には特に余裕がないため
27	他分野の方の講義を聞いたこと
28	・全く知らなかった、反転授業、アクティブラーニングの概念を理解できた ・他の職種の先生との会話、授業は新鮮だった。
29	他分野の先生方の授業方法が刺激になった。

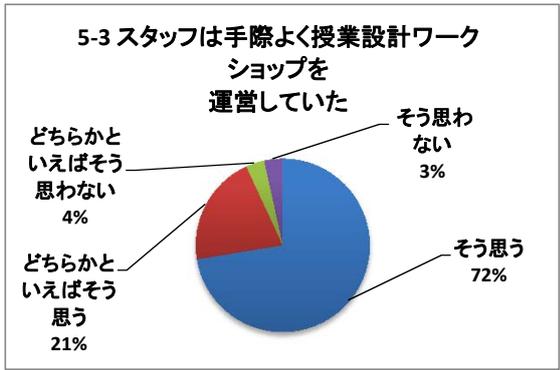
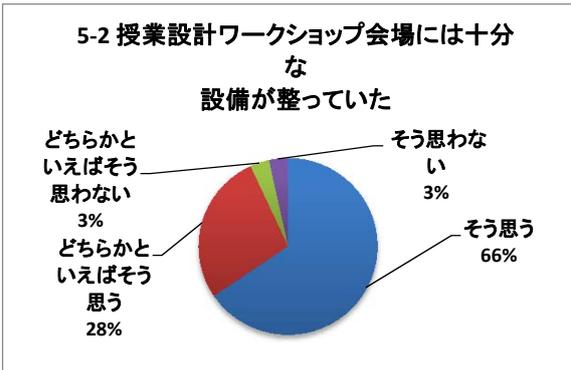
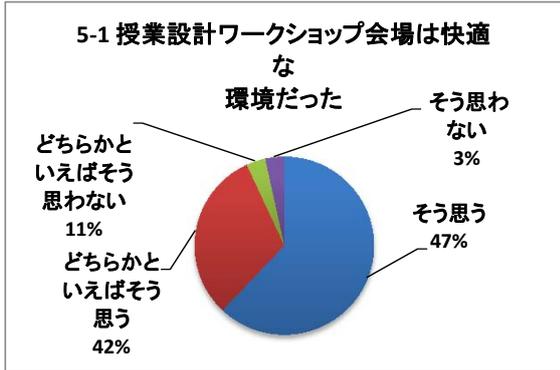
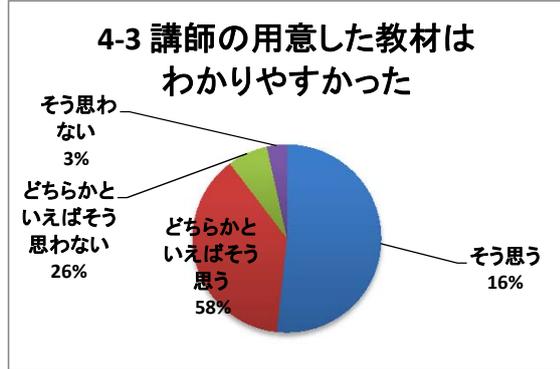
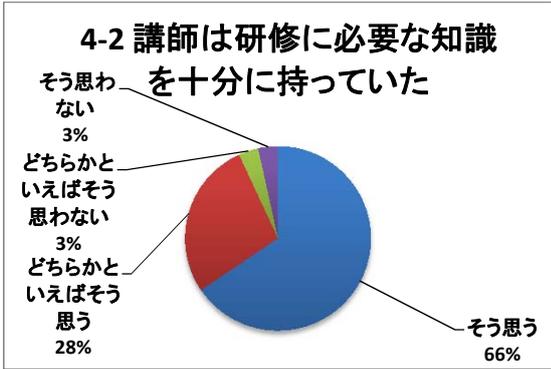
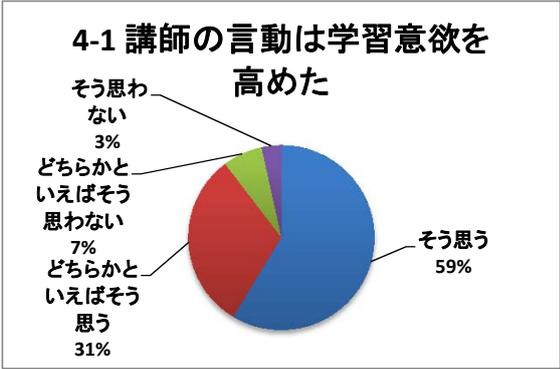
7自由記述	このプログラムをよりよいものにするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
1	失敗を上手く活かせる教材づくりや授業展開など学びたい。
2	事前に提出した、シラバスや授業計画について、専門家のコメントや修正案を提示してほしい。
3	1日目の昼食後が(眠氣的に)ツライ時間だったので、そこで手や頭を使う内容だと耐えられた。
6	教育実績を適正に評価する系が構築できてから本プログラムを行うべきだと思う。
9	講師陣の話す内容の重複が多い。
10	少し時間がかかっても良いので模擬授業の時間をもっと伸ばしてほしい。短すぎて落ち着いて話せない。
12	参加者にcriteriaの吟味
13	アクティブラーニングや、その手法の実際例、具体例を見たり、体験したりしたかった。
14	主催は徳島大学ですが講義のひとつくらいは他大学から招待されると、より刺激されることが増えると思います。
15	シラバスのフォーマットとチェックシートの項目が一致していない点が気になった。 各セッションでのレクチャーの割合が多かったのでもう少しワークの割合を増やした方が良かったと思った。

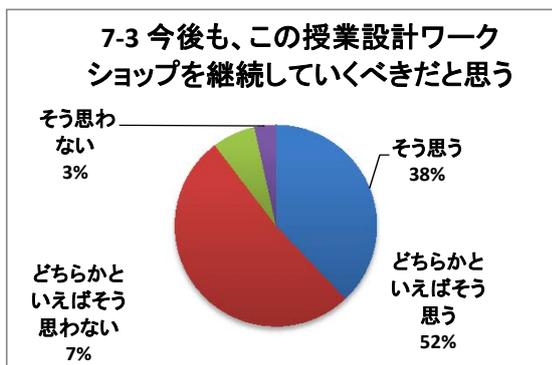
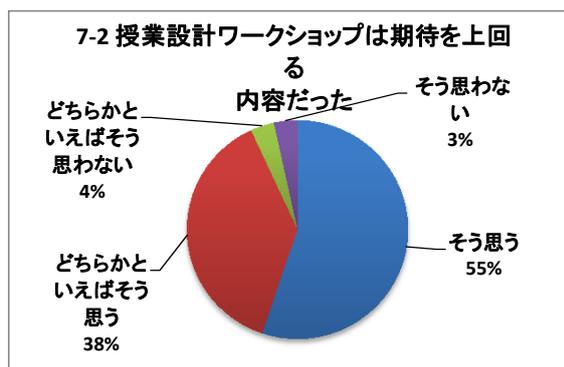
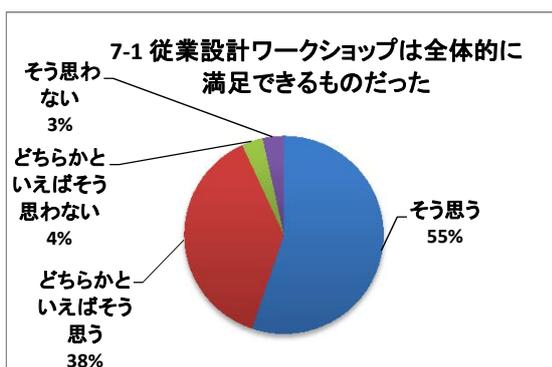
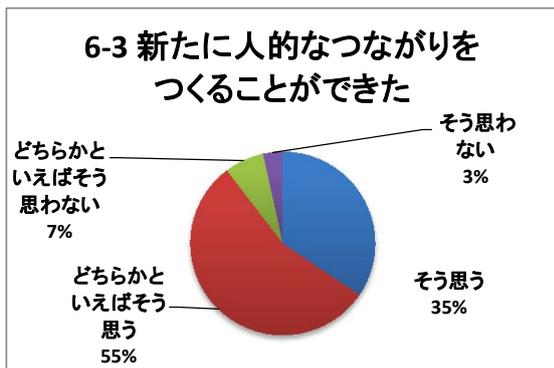
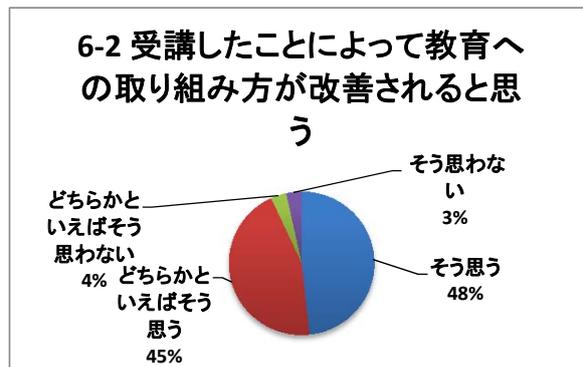
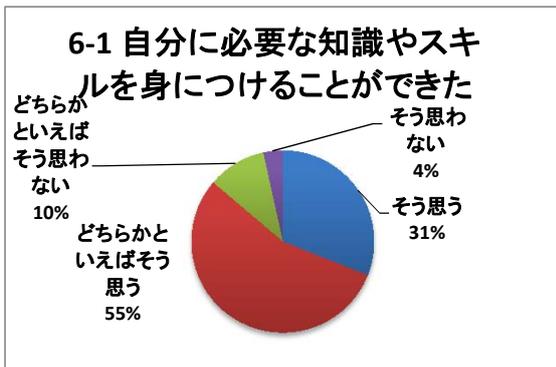
7自由記述	このプログラムをよりよいものにするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
17	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的な学び」とは何か考える時間がなかった。 ・「深い学び」について「浅く学ぶ」ともいえるかもしれない。 ・スキル習得に特化して、複数実践できる機会になればと思います。
18	充分、満足しています。ありがとうございました。
19	レクチャーが多い。もっと具体例が、実践例がないと授業の改善に役に立たないと思う。アクティブラーニングについての必要性は理解できたがどうするのか、評価はどうするのかまったくわからなかった。
20	特になし
21	平日一日で！！
22	来年度から開催しない。
27	事前に、模擬授業など(2日目の用意)もう少し情報を頂けるとありがたいと思いました。
29	座学よりもワークの時間を増やした方が良い。 1日目があったいない。

7自由記述	その他、お気づきの点があればご記入下さい。
2	FD委員の皆さん頑張って下さい。
3	お世話になりました！
5	講師の先生のレクチャー内容が興味深く、分かりやすいものであった。
6	蔵本の教員のためのプログラムは蔵本キャンパスで行ってほしい。
10	全体集合の部屋はエアコンは少し寒かったと思う。
12	これだけの運営が大変だったと思います。 ありがとうございました。
14	スタッフの皆さんにはこの二日間お世話になりました。 ありがとうございました。
18	特にありません。
20	アイスブレイクの効果が大きい。特に徳島大外からの教員にとって。
21	教育がもっと効果される仕組みが必要(性善説に立たないこと)

※自由記述の番号は回答者が連動しています。







SPOD研修アンケート集計結果

研修名: 第5回「よりよい授業のためのFDワークショップ」

実施日: 平成26年9月18日(木)から19日(金)

実施会場: 休暇村讃岐五色台

参加者数: 14名

アンケート回答者数: 9名

設問1 本ワークショップへの参加の経緯についてお答え下さい。

1-1 ワークショップへの参加動機は何ですか(複数回答)

①新任研修に参加して興味をもったため	2
②実施要項を見て内容に興味をもったため	3
③所属部署からの依頼があったため	5
④他部署の人と交流したいため	1
⑤その他	1
合計	12

1-2 1-1で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい。

授業をさらにより良くしたい

1-3 ワークショップの目的や内容について、ある程度知った上で参加した

①そうである	6
②どちらかといえばそうである	1
③どちらかといえばそうではない	2
④そうではない	
合計	9

設問2 本ワークショップの内容についてお答え下さい。

2-1 ワークショップの目的は、明確に設定されていた

①そう思う	7
②どちらかといえばそう思う	2
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	9

2-2 ワークショップは、自分の業務(教育実践)に生かせる内容であった

①そう思う	8
②どちらかといえばそう思う	1
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	9

2-3 ワークショップは、わかりやすい順序ですすめられていた

①そう思う	6
②どちらかといえばそう思う	3
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	9

2-4 ワークショップでよかった点は以下のうちどれですか<複数選択可>

①学生の考える良い授業・悪い授業について考える機会を得た	6
②シラバスの書き方について理解が深まった	8
③複数の授業方法について知ることができた	6
④成績評価について理解が深まった	3

⑤自らが開発した授業の良い点・改善点を知ることができた	3
⑥ワークショップの手法を知ることができた	3
⑦他学部等の教員と知り合いになれた	7
⑧その他	

設問3 本ワークショップに参加しての成果についてお答え下さい。

3-1 ワークショップで設定した目標のうち、達成されたのはどれですか<複数選択可>

①適切な目的・目標が設定できるようになった	9
②わかりやすいシラバスを書けるようになった	9
③様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	7
④様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	4
⑤学生参加型のグループ作業を、自ら授業で導入することができるようになった	4

設問4 本ワークショップの研修環境についてお答え下さい。

4-1 講師の言動は学習意欲を高めた

①そう思う	6
②どちらかといえばそう思う	3
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	9

4-2 事務局は手際よくワークショップを運営していた

①そう思う	8
②どちらかといえばそう思う	1
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	9

4-3 ワークショップ会場は快適な環境であった

①そう思う	8
②どちらかといえばそう思う	1
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	9

設問5 本ワークショップは全体を通して満足できるものであった

①そう思う	8
②どちらかといえばそう思う	1
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	9

【自由記述欄】

3-2 ワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書きください。

・シラバスの書き方について、ポイントをおさえた説明がなされていたので、大変分かりやすく、これから活用出来るものになりました。

また、アイスブレイキングについては、これまで自分の授業でも取り入れていたのですが、改めて学生の立場でやってみることで、やはり効果の大きいものだとは再認識出来ました。

クリッカー、コミュニケーションカードも良いツールなので、ぜひ取り入れたいと思います。

今回のワークショップは、講師の先生方の熱意と事務局の方々の素晴らしい企画・運営があつて、恵まれた環境の中研修できたので、やはり教員として授業の準備をしっかりと、学生に恵まれた環境で意欲的に学習に取り組ませたいと感じました。

・参考資料として配布された講師のレジュメが参考になったり、同じグループになった先生方の取り組みや工夫を知ることができ勉強になった。グループディスカッションやコミュニケーションカードを授業に導入してみたい。

・今年度まで授業経験がまったくなかったため、シラバスの作り方、授業形式、手法等のひな形を学ぶことができ、すべてを実践してみたいという気持であるが、とりわけ学生参加型の授業(グループワークのさせ方)は参考になり、語学の授業やゼミなどで実践してみたい。

- ①グループワークの授業中への導入
- ②コミュニケーション・カードやクリッカーの活用による受講生の状況把握
- ③分かりやすいシラバスを書くこと(特に、学生にきちんと授業内容や進め方を伝えるような記述ポイント)
- ④話し方やスピード、声の大きさ、アイコンタクトなど、学生に授業内容を印象付けるためのコツ

・主に学んだ点は、シラバスの書き方、学生参加の授業の進め方、クラス規模にあった授業の進め方です。

私が担当しているのは、主に60人程度の授業ですが、ディスカッションを行う授業形態のものがありますので、ここでより丁寧な議論の誘導の仕方を実践してみたいと思います。

・シラバスの書き方に対する演習は、丁寧で分かりやすく非常に参考になった。授業内容を魅力的に伝えることだけにとらわれず、何が学生にとって必要な情報か、を考える良いきっかけとなった。

例えば、フィールドワークの際の保険の加入や教科書の値段など、を書くべきとの御指摘をいただき、今後、留意してシラバス作成に臨みたいと思う。このワークショップでは、学生の生の声というのは、グループワークの「学生の考えるよい授業」のみで、取り上げ時間配分も少なかったが、このような趣旨のグループワークをより拡大して掘り下げていくというのも重要ではないか、と感じた。このグループワーク I における学生からの要望のグループ分けと問題の分析は、もっとも有意義なワークであると感じた。

「分からないことを前提に講義を展開してほしい、理解ができていないことを前提に質問に返答してほしい」というコメントは印象に残っており、実際に後期から担当している講義にも役立っている。

設問6 本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい。

・コーヒーやお茶を自由に飲むことができたのがありがたかった。リラックスできた。
充実したプログラムだったが、反面時間に余裕がないようにも感じた。
せっかく壁に各先生の悩みや取り組みを掲示していただいたのに、ゆっくり見る時間がなかった。
休憩時間をさらに長くとってもよいのではないかと思う。
講義やワークショップそのものも大変勉強になったが、加えて各講師の体験談や実際の授業で工夫していること、悩みなどを聞いたこともまた勉強になった。
体験談や経験を話し合い、聞くような講義があってもよいかもしれない。

・まずは、運営者のご尽力に御礼申し上げます。ワークショップは非常に効率よく進み、内容もとても充実しておりました。また、香川大学の主催で、また参加者も香川大学の先生方が多い中で、他大学の私が居心地よく過ごすことが出来たことは、運営者の皆さまのご配慮の賜物と思います。
全体を通して非常に素晴らしいワークショップでした。あえて改善点を申し上げますと、1)進行のペースがやや早く、参加者からの質問を受け付ける時間がほとんどなかった、2)講師の方のパワーポイントのスライドのメリハリがやや弱く、ポイントをつかみづらい、という2点になります。
このような会を開催することは大変なことと思いますが、今後もこのような素晴らしい勉強会を継続して行っていただければ幸いです。今後共よろしく願いいたします。

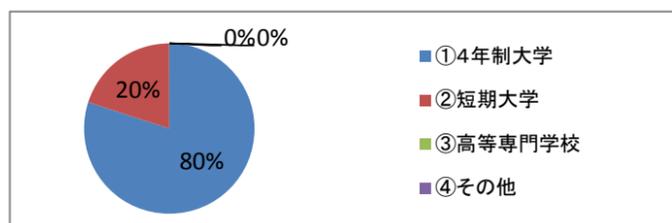
SPOD研修アンケート集計結果

研修名 : 学生の学びを支援するための授業準備ワークショップ(新任教員FDワークショップ)
 実施日 : 平成26年9月1日(月)~2日(火)
 実施会場 : 高知大学朝倉キャンパス 共通教育棟3号館1階310教室
 参加者数 : 5名
 アンケート回答者数 : 5名

1. 参加者ご自身について

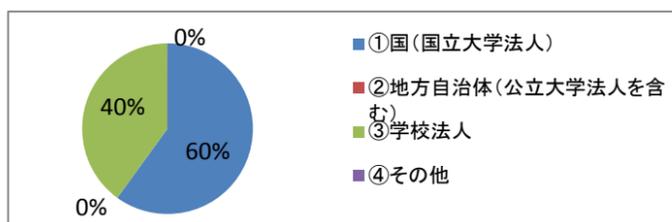
1-(1) 所属先

	度数	割合
①4年制大学	4	80.0
②短期大学	1	20.0
③高等専門学校	0	0.0
④その他	0	0.0
	5	100.0



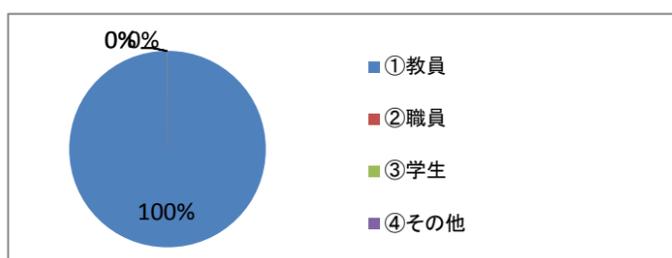
1-(2) 所属先の設置者

	度数	割合
①国(国立大学法人)	3	60.0
②地方自治体(公立大学法人を含む)	0	0.0
③学校法人	2	40.0
④その他	0	0.0
	5	100.0



1-(3) 職種

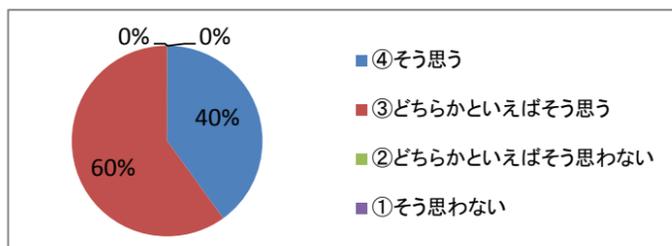
	度数	割合
①教員	5	100.0
②職員	0	0.0
③学生	0	0.0
④その他	0	0.0
	5	100.0



2. 研修参加への経緯について

2-1 研修目的や内容についてある程度知ったうえで参加した

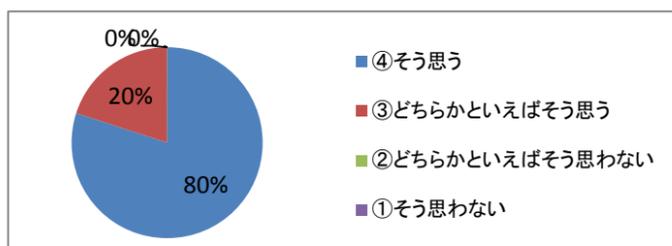
	度数	割合
④そう思う	2	40.0
③どちらかといえばそう思う	3	60.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100.0



3. 研修プログラムの設計について

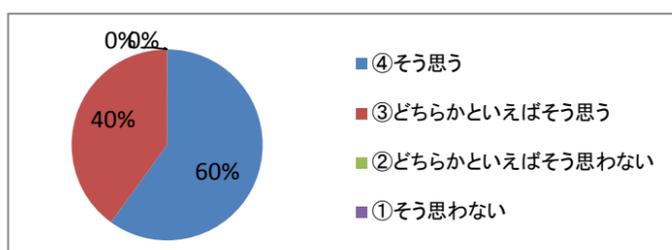
3-1 研修の目的は明確に設定されていた

	度数	割合
④そう思う	4	80.0
③どちらかといえばそう思う	1	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100.0



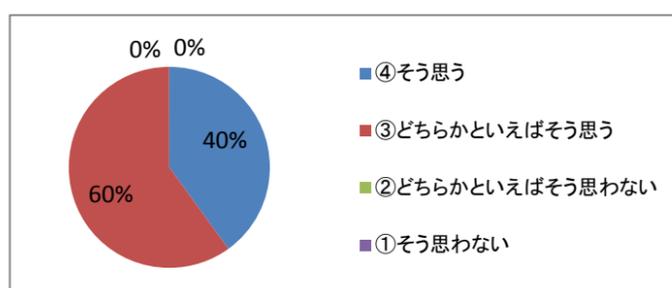
3-2 研修は自分の業務(教育改善)に生かせる内容だった

	度数	割合
④そう思う	3	60.0
③どちらかといえばそう思う	2	40.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100.0



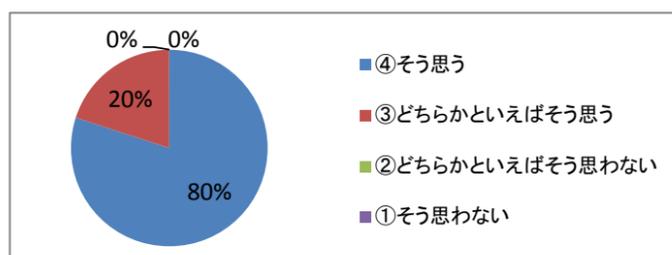
3-3 研修は分かりやすい順序で進められた

	度数	割合
④そう思う	2	40.0
③どちらかといえばそう思う	3	60.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100.0



3-4 研修会場は快適な環境だった

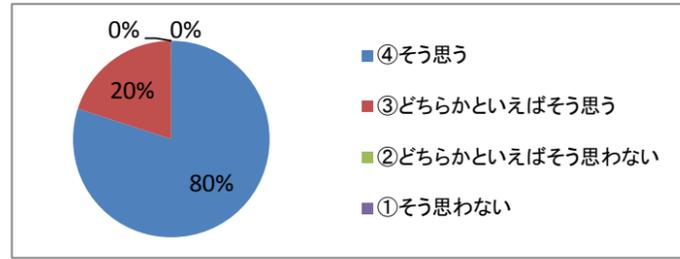
	度数	割合
④そう思う	4	80.0
③どちらかといえばそう思う	1	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100.0



4. 研修スタッフについて

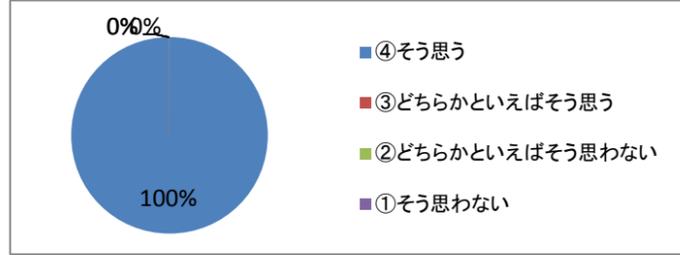
4-1 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④そう思う	4	80.0
③どちらかといえばそう思う	1	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



4-2 事務局は手際よく運営していた

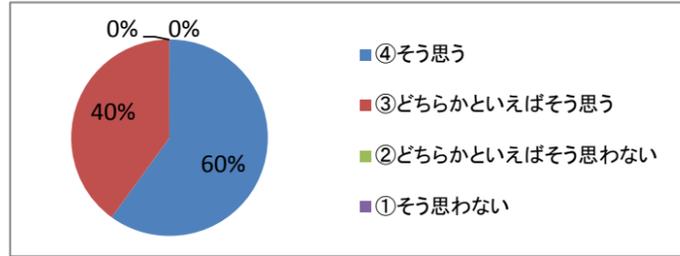
	度数	割合
④そう思う	5	100.0
③どちらかといえばそう思う	0	0.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



5. 研修成果について

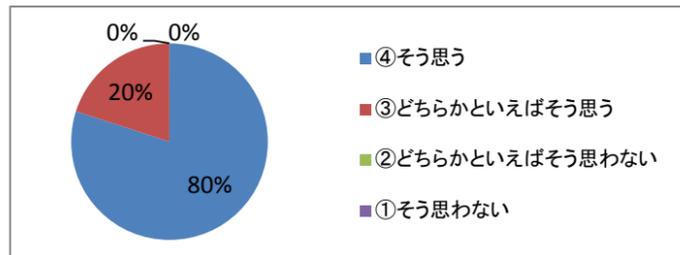
5-1 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④そう思う	3	60.0
③どちらかといえばそう思う	2	40.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



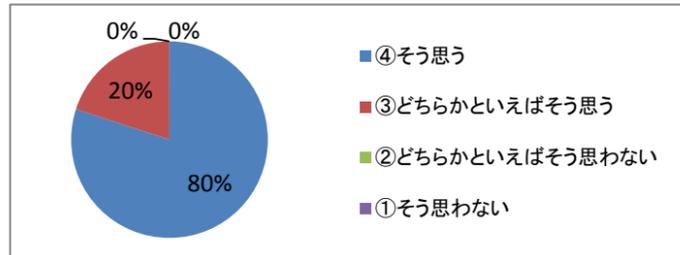
5-2 受講したことによって業務の取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④そう思う	4	80.0
③どちらかといえばそう思う	1	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



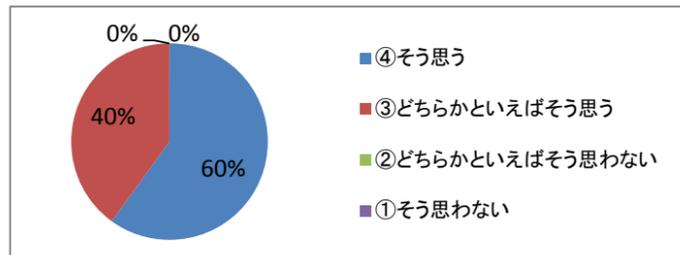
5-3 研修の内容は十分に理解できた

	度数	割合
④そう思う	4	80.0
③どちらかといえばそう思う	1	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



5-4 新たに人的なつながりをつくることができた

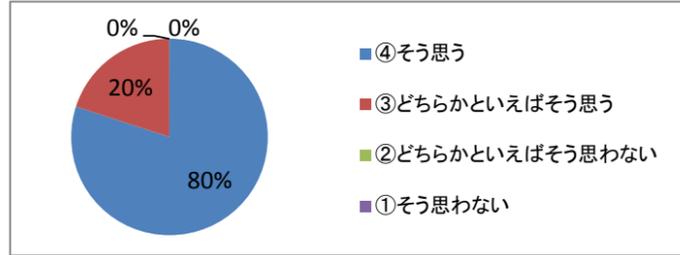
	度数	割合
④そう思う	3	60.0
③どちらかといえばそう思う	2	40.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



6. 研修全体について

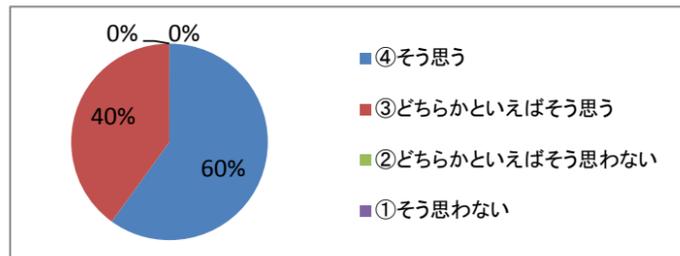
6-1 研修は全体的に満足できるものだった。

	度数	割合
④そう思う	4	80.0
③どちらかといえばそう思う	1	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



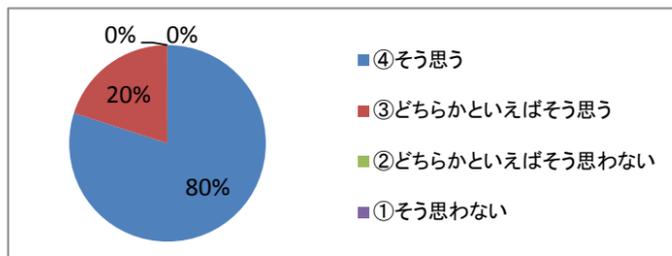
6-2 研修は期待を上回る内容だった

	度数	割合
④そう思う	3	60.0
③どちらかといえばそう思う	2	40.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



6-3 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

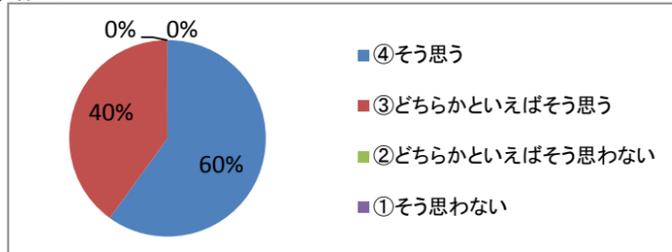
	度数	割合
④そう思う	4	80.0
③どちらかといえばそう思う	1	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



7. 本研修の目標である下記4項目について、到達できていると思いますか？

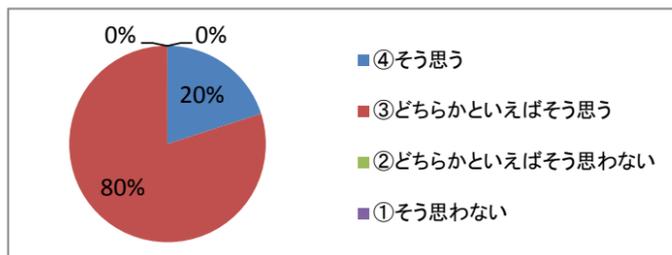
7-1 適切な授業の目的・目標設定ができるようになる

	度数	割合
④そう思う	3	60.0
③どちらかといえばそう思う	2	40.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



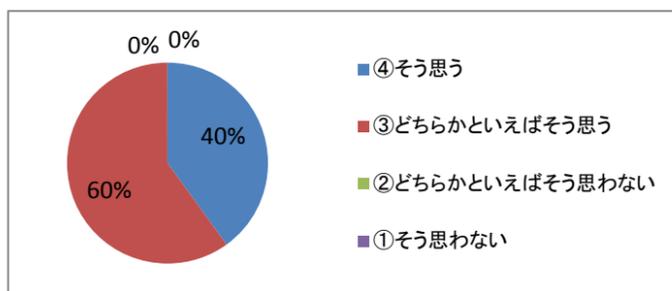
7-2 わかりやすいシラバスを書けるようになる

	度数	割合
④そう思う	1	20.0
③どちらかといえばそう思う	4	80.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



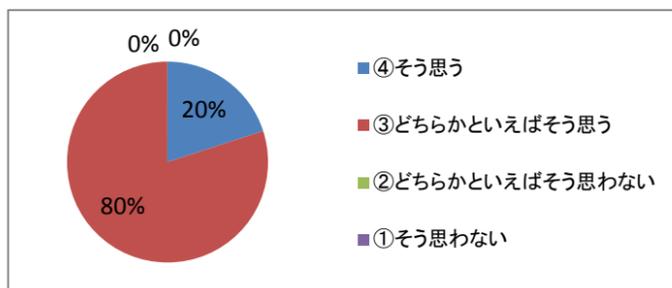
7-3 学習成果（ラーニング・アウトカムズ）を意識して授業デザインができるようになる

	度数	割合
④そう思う	2	40.0
③どちらかといえばそう思う	3	60.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



7-4 学生参加型のグループ作業を自らの授業で導入することができるようになる

	度数	割合
④そう思う	1	20.0
③どちらかといえばそう思う	4	80.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



1-(4)本研修を知ったきっかけ・参加のきっかけは何ですか？
所属大学のFD委員からの案内(転送メール)
教職員ライブラリをみて
メールでの案内？
メール(学内)
所属大学のFD委員長よりの紹介
1-(5)現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか？(具体的に)
学生が意欲的に授業に臨めるような動機づけ
知識と態度、思考力が高まるコースデザインスキル
対面授業を行うなら、そのやり方だけど…大人向けの研修のやり方っていうか、上手になる方法？
学生の状況の捉え方など
グループワーク(教員自身が慣れていないので)
8.研修ですぐに使ってみたいと感じたこと(アクションプラン)を、具体的にお書きください。
後期からの授業ではグループワークを積極的に取り入れたいです。 授業内容についても改善していきたいと思います。
次年度に向けて、シラバスを見直しをしてみたいと思いました。秋に修士課題のシラバスを考えることがあるので、学生さんの2年間を想像して創造していきたいです。学科の目標を自分の担当する授業の中でも展開していきたいです。
グループワーク、グループ作業をもっとたくさん恐れずにやってみたいと思ったシラバスを書きなおせると思った。
これまでは多人数講義が主ということもあり一方的な講義スタイルで行ってきた。今回の研修で多人数でもGW等適応できることが分かったのでぜひ導入した。
9.本研修を受講して良かったと思われる点や改善点、意見などを自由にお書きください。
今までこれで良いのかな?と思いながら授業を進めていましたが、今回色々なことを確認・ご相談できたことが良かったです。2日間本当にありがとうございました。
ありがとうございました。準備等大変だったろうと思います。ありがとうございます。
少々時間がタイトだった。もう少し余裕があっても良かった。
具体的なシラバス作成上のヒントがたくさん得られた。講師の先生が優しく感謝しています。

新任教員研修アンケート項目について

アンケート項目等		項目番号			
		愛媛	徳島	香川	高知
参加者 自身	所属先(大学, 短期大学, 高専, その他の別)		1-(1)		1-(1)
	設置者(国立, 公立, 学校法人, その他の別)		1-(2)		1-(2)
	職種(教員, 職員, 学生, その他の別)		1-(2)		1-(3)
	現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(自由記述)		1-(3)		1-(5)
参加の経緯・理由	本研修を知ったきっかけ・参加のきっかけは何ですか?(自由記述)				1-(4)
	ワークショップへの参加動機は何ですか<複数選択可>	1-1		1-1	
	実施要項を見て内容に興味をもったため	1-1		1-1	
	所属部署からの依頼があったため	1-1		1-1	
	他大学・他部署の人と交流したいため	1-1		1-1	
	新任研修に参加して興味をもったため	1-1		1-1	
	テニユア・トラック必須EDプログラムだから	1-1			
	その他	1-1			
	「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい(自由記述)	1-2		1-2	
	ワークショップの目的や内容について、ある程度知った上で参加した	1-3	2-1		2-1
自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した		2-2			
ワークショップの内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した		2-3			
ワークショップの内容・設計	ワークショップの目的は、明確に設定されていた	2-1	3-1	2-1	3-1
	ワークショップは、自分の業務(教育実践)に生かせる内容であった	2-2	3-2	2-2	3-2
	ワークショップは、わかりやすい順序ですすめられていた	2-3	3-3	2-3	3-3
	ワークショップでよかった点は以下のうちどれですか<複数選択可>	2-4		2-4	
	学生の考える良い授業・悪い授業について考える機会を得た			2-4	
	シラバスの書き方についての理解が深まった	2-4		2-4	
	「何が学生の学びを促進するのか?」(浅い学習と深い学習)について考える機会を得た	2-4			
	複数の授業方法について知ることができた	2-4		2-4	
	成績評価についての理解が深まった	2-4			
	クラスデザイン(授業計画書の書き方)について理解が深まった	2-4			
	自らが開発した授業の良い点・改善点を知ることができた	2-4		2-4	
	ワークショップの手法を知ることができた	2-4		2-4	
	他学部等の教員と知り合いになれた	2-4		2-4	
	その他	2-4			
	「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい(自由記述)	2-5			
ワークショップの時間は目的を達成するために丁度よい長さだった		3-4			
ワークショップの実施時期は適当だった		3-5			
参加者の人数は適当だった		3-6			

アンケート項目等		項目番号			
		愛媛	徳島	香川	高知
ワークショップの成果	ワークショップで設定した目標のうち、達成されたのはどれですか<複数選択可>	3-1		3-1	
	適切な目的・目標設定ができるようになるようになった	3-1		3-1	7-1
	わかりやすいシラバスを書けるようになるようになった	3-1		3-1	7-2
	深い学び・浅い学びについて知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	3-1			
	様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できる	3-1		3-1	
	様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	3-1		3-1	
	学習成果(ラーニング・アウトカムズ)を意識して授業デザインできるようになる				7-3
	学生参加型のグループ作業を、自ら授業で導入することができるようになった	3-1		3-1	7-4
	自分に必要な知識やスキルを身につけることができた		6-1		5-1
	受講したことによって教育への取り組み方(業務)の取り組みが改善されると思う		6-2		5-2
研修の内容は十分に理解できた				5-3	
新たに人的なつながりをつくることができた		6-3		5-4	
・ワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書き下さい(自由記述) ・研修ですぐに使ってみたいと感じたこと(アクションプラン)を、具体的にお書きください。(自由記述)	3-2		3-2	8	
スタッフ	講師の言動は学習意欲を高めた	4-1	4-1	4-1	4-1
	講師は研修に必要な知識を十分に持っていた		4-2		
	講師の用意した教材はわかりやすかった		4-3		
	事務局は手際よくワークショップを運営していた	4-2	5-3	4-2	4-2
環境・設備	ワークショップ会場は快適な環境であった	4-3	5-1	4-3	3-4
	授業設計ワークショップ会場には十分な設備が整っていた		5-2		
(全体)満足度	本ワークショップは全体を通して満足できるものであった	5	7-1	5	6-1
	研修は期待を上回る内容だった		7-2		6-2
	今後もワークショップを継続していきべきだと思う		7-3		6-3
その他	本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい(自由記述)	6	7	6	9
	本ワークショップに参加してよかったと思われる点を、具体的にお書き下さい。(自由記述)		7		
	その他、お気づきの点があればご記入ください。(自由記述)		7		

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：平成26年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（共通科目）
 実施日：平成26年9月11日（木）～9月12日（金）
 実施会場：愛媛大学総合情報メディアセンター4階 第4演習室
 当日参加者数：28名
 アンケート回答者数：27名

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	27	100.0
② 短期大学	0	0.0
③ 高等専門学校	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	27	100.0

(2) 所属先の設置者

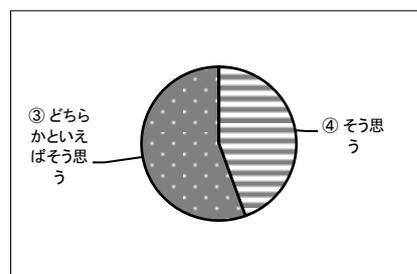
	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	22	81.5
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	5	18.5
③ 学校法人	0	0.0
④ その他（独立行政法人）	0	0.0
計	27	100.0

(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。（具体的に）
別紙記載

2. 研修参加への経緯について

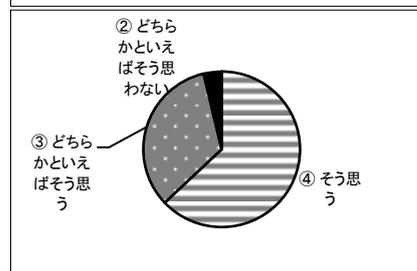
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	12	44.4
③ どちらかといえばそう思う	15	55.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



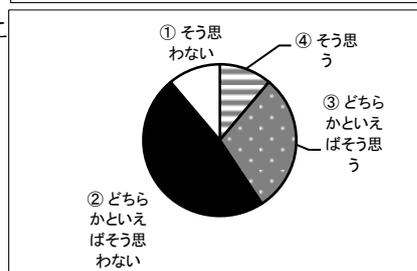
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	17	63.0
③ どちらかといえばそう思う	9	33.3
② どちらかといえばそう思わない	1	3.7
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



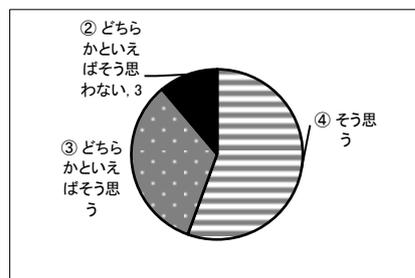
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	3	11.1
③ どちらかといえばそう思う	8	29.6
② どちらかといえばそう思わない	13	48.1
① そう思わない	3	11.1
計	27	100.0



(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

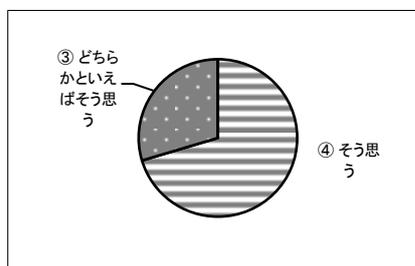
	回答数	割合
④ そう思う	15	55.6
③ どちらかといえばそう思う	9	33.3
② どちらかといえばそう思わない	3	11.1
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



3. 研修プログラムの設計について

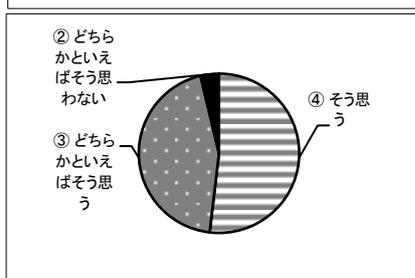
(1) 研修の目的は明確に設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	19	70.4
③ どちらかといえばそう思う	8	29.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



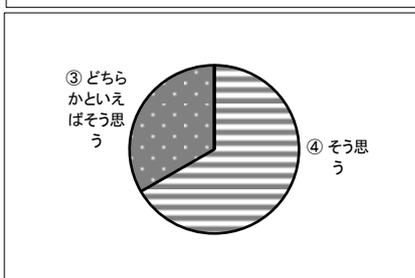
(2) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	14	51.9
③ どちらかといえばそう思う	12	44.4
② どちらかといえばそう思わない	1	3.7
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



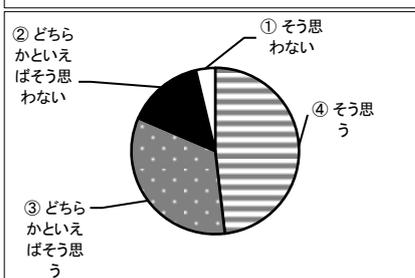
(3) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	回答数	割合
④ そう思う	18	66.7
③ どちらかといえばそう思う	9	33.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



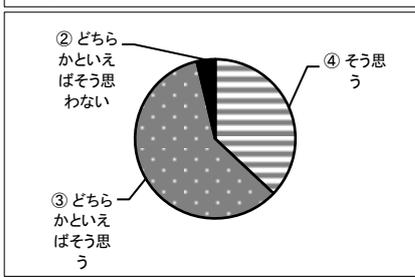
(4) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	13	48.1
③ どちらかといえばそう思う	9	33.3
② どちらかといえばそう思わない	4	14.8
① そう思わない	1	3.7
計	27	100.0



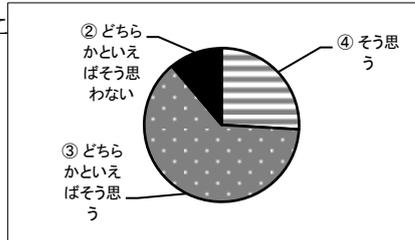
(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	10	37.0
③ どちらかといえばそう思う	16	59.3
② どちらかといえばそう思わない	1	3.7
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



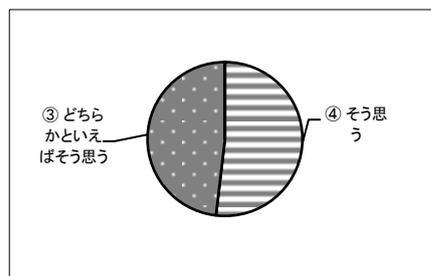
(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

	回答数	割合
④ そう思う	7	25.9
③ どちらかといえばそう思う	17	63.0
② どちらかといえばそう思わない	3	11.1
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



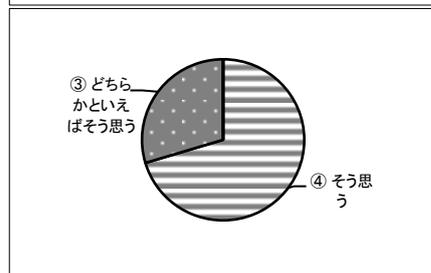
(7) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	14	51.9
③ どちらかといえばそう思う	13	48.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



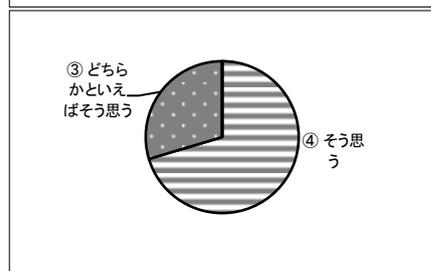
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	19	70.4
③ どちらかといえばそう思う	8	29.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

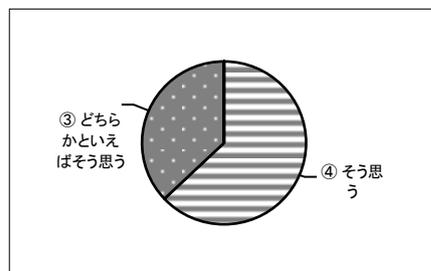
	回答数	割合
④ そう思う	19	70.4
③ どちらかといえばそう思う	8	29.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



4. 研修スタッフについて

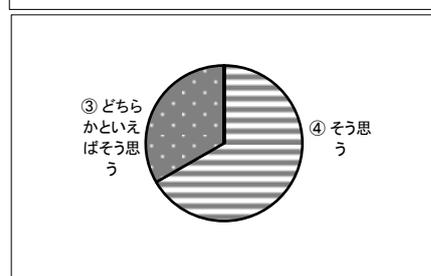
(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
④ そう思う	17	63.0
③ どちらかといえばそう思う	10	37.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



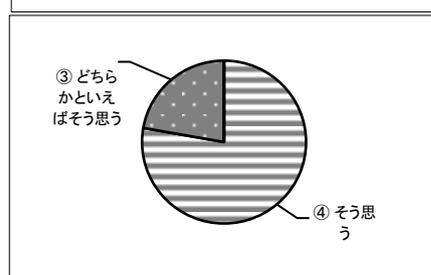
(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	18	66.7
③ どちらかといえばそう思う	9	33.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



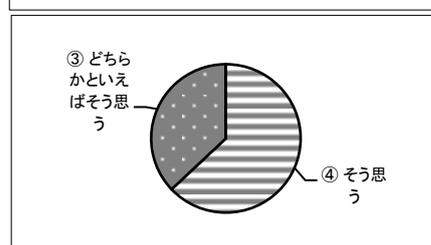
(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	回答数	割合
④ そう思う	21	77.8
③ どちらかといえばそう思う	6	22.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



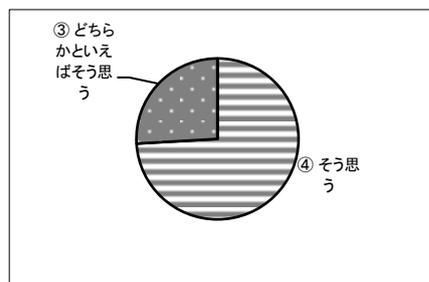
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	17	63.0
③ どちらかといえばそう思う	10	37.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



(5) 事務局の対応は丁寧だった

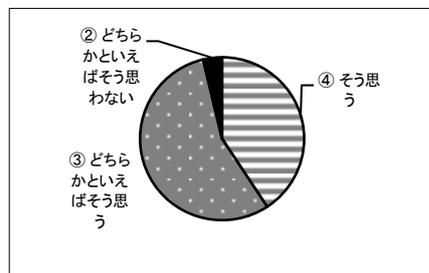
	回答数	割合
④ そう思う	20	74.1
③ どちらかといえばそう思う	7	25.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



5. 研修成果について

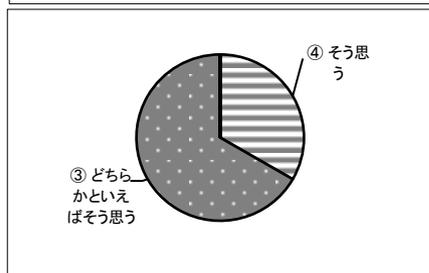
(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	11	40.7
③ どちらかといえばそう思う	15	55.6
② どちらかといえばそう思わない	1	3.7
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



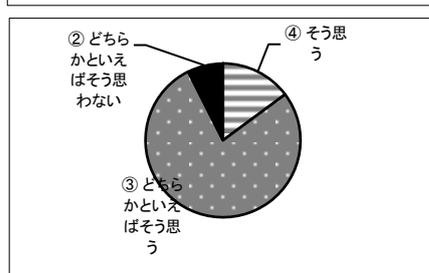
(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	回答数	割合
④ そう思う	9	33.3
③ どちらかといえばそう思う	18	66.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



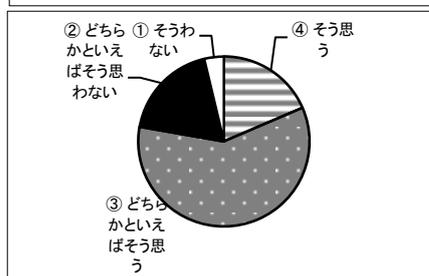
(3) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	4	14.8
③ どちらかといえばそう思う	21	77.8
② どちらかといえばそう思わない	2	7.4
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	5	18.5
③ どちらかといえばそう思う	16	59.3
② どちらかといえばそう思わない	5	18.5
① そう思わない	1	3.7
計	27	100.0



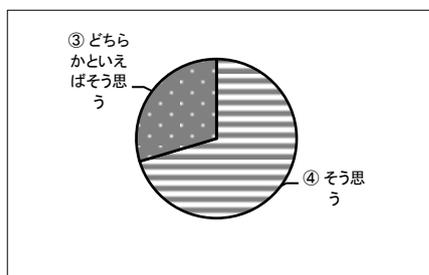
受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

別紙記載

6. 研修全体について

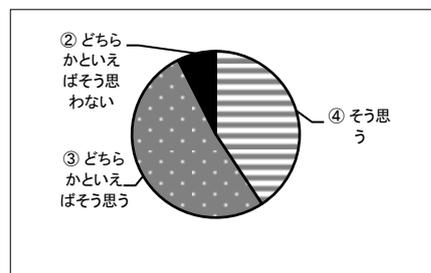
(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	19	70.4
③ どちらかといえばそう思う	8	29.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



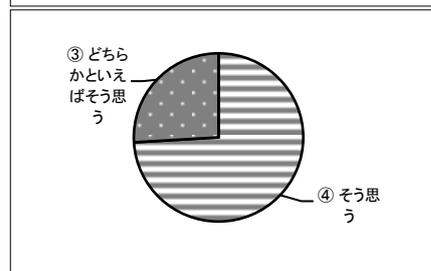
(2) 研修は期待を上回る内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	11	40.7
③ どちらかといえばそう思う	14	51.9
② どちらかといえばそう思わない	2	7.4
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	回答数	割合
④ そう思う	20	74.1
③ どちらかといえばそう思う	7	25.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



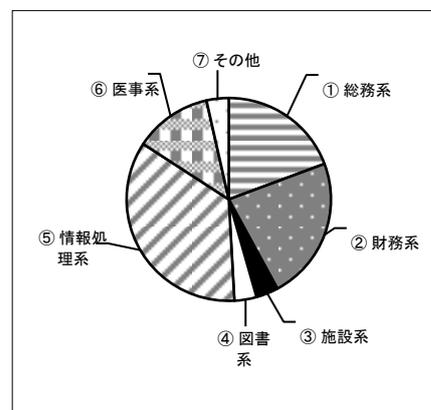
研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

7. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 総務系	11	40.7
② 財務系	13	48.1
③ 施設系	2	7.4
④ 図書系	2	7.4
⑤ 情報処理系	20	74.1
⑥ 医事系	7	25.9
⑦ その他	2	7.4



その他の記述内容

- ・既にあるが学務系の充実
- ・英語

【自由記述欄】

1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

- ・ パソコンスキル (Word, Excel, Access, PowerPoint) (13)
- ・ ネットワーク (2)
- ・ 文書作成 (2)
- ・ 予算管理, 情報処理 (データ管理)
- ・ ICT, 財務関係
- ・ 情報セキュリティ, IT 全般
- ・ 膨大なデータを効率よく処理すること
- ・ 手作業にて行っているチェックシステムの構築
- ・ Access 等を利用したデータ集計及び管理の効率化
- ・ プレゼンテーション能力
- ・ 他人に上手に説明する能力
- ・ 英語, 英会話
- ・ 企画・立案
- ・ データ操作, 決算業務, 自身の大学の長・短所をもっとよく知って, 他大学に人に説明できる
- ・ まだ採用されたばかりなので大学の業務も含め, 必要な知識が何かを見極めることが第一だと考える
- ・ 学務業務の知識
- ・ 映像, 音響等機器のトラブル対応のスキル

5. 受講して良かったと思われる点を, 具体的にお書き下さい。

- ・ Access で出来る機能を学ぶことができた。(2)
- ・ 今までなんとなく使っていた機能について, 体系的に分かった。(2)
- ・ 教材がとてもわかりやすかったです。
- ・ 既存のシステムへの理解が深まった。
- ・ Access に関する知識を身につけることができた。
- ・ Access の知識が深められた。講師の方の話し方が聞きやすかった。
- ・ Access に対して苦手意識が少なくなった。必要であれば, 業務で利用したいと思った。
- ・ データ操作の苦手意識を克服できた。
- ・ 受講前と比べ Access はそれほど難しいものではないと気づけた。
- ・ Access の知識が格段に向上したように思える。
- ・ 人が作った Access を使用しているが, 何故この文字がでるのか不明だった点が理解できた。
- ・ レクチャーと実践が交互に進められたため, 理解しやすい構成だったと思う。
- ・ OS Win8.1 の PC を使うのは初めてだったので, 体験できて良かった。Access も最新の「2013」に触れることができ, 便利な機能が探しやすくて良かった。自分の知りたかったことや疑問の解決に繋げることができて良かった。
- ・ ついていけてなかったが, とても楽しかった。また, 自分でも勉強したい。講師・スタッフの方, お疲れ様でした。

- ・ とても聞きやすくて良かったです。ありがとうございます。休憩をこまめにはさんでくれたのも、とてもいいリフレッシュになりました。
- ・ 研修プログラムが比較的余裕のある時間配分で組まれていたので、落ち着いて研修に取り組むことができ、Accessのスキルアップが図れた。
- ・ 業務において、分からないことがでてきたら、その操作方法のみ調べるということをしていたので、2日間じっくり活用方法を学べて良かったです。
- ・ DBに対して、Accessで出来ること及び使い方が分かったこと。テーブル、クエリ、フォーム、レポートという段階的な利用方法の把握ができたこと。
- ・ 2年前の基礎・応用を2日間で実施したものよりも丁寧に進行したので、クエリの部分がよく分かりました。
- ・ ちょうど業務でAccessを使い始めた時期だったので一連の操作や仕組み、流れが分かり大変勉強になった。また懇親会も含め人的なつながりが出来、とても有意義な研修となった。

6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ・ 研修会場が寒かったです。
- ・ 初日を朝から実施するのは、移動が大変だと感じた。
- ・ 初日、開始時間を9:30か10時にしていただけましたら県外参加者としてはありがたいです。
(前泊が必要となる為)
- ・ 受講のレベルがまちまちだったと思います。
- ・ 人数が多すぎるとレベルや進行にバラつきがあり、滞ることがあったが(2年前)今回は適度な人数だったと思います。出来るだけ少人数で開催できると、マンツーマンでできて、修得すると思います。
- ・ 応用編を開催する際は、基礎編の内容を事前にメール等で配付するのはどうでしょう。
- ・ 事前に、前回の復習資料があるとよい(応用編の場合)。懇親会の場所は、車椅子利用者も参加できる店がいいと思う(少しそういうことを伺ったので)。
- ・ 可能であれば、冊子復習問題の事前配付をお願いしたい。(自信がない人は、先に勉強しておくので。)
- ・ 内容のボリュームが、時間(研修の)に対して、少し多いかなと感じた
- ・ フォームを活用したアクションクエリについて、もう少し知りたかった。「基礎編」と「応用編」以外に、「基礎活用編」のようなものが、あいだにあると、受講申込の際、自分のレベルをより診断しやすいのかなと思いました。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：平成26年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）

実施日：平成26年10月9日（木）～10月10日（金）

実施会場：愛媛大学本部第2会議室

当日参加者数：23名

アンケート回答者数：23名

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	23	100.0
② 短期大学	0	0.0
③ 高等専門学校	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	23	100.0

(2) 所属先の設置者

	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	19	82.6
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	3	13.0
③ 学校法人	1	4.3
④ その他（独立行政法人）	0	0.0
計	23	100.0

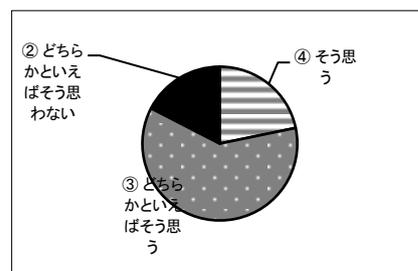
(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。（具体的に）

別紙記載

2. この研修について

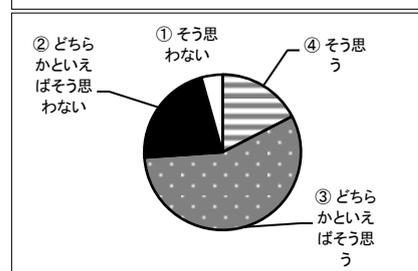
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	5	21.7
③ どちらかといえばそう思う	14	60.9
② どちらかといえばそう思わない	4	17.4
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



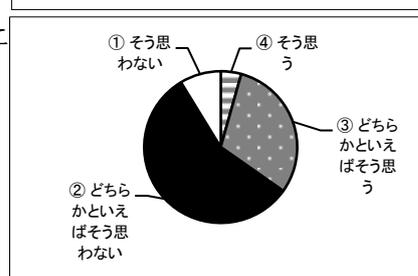
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	4	17.4
③ どちらかといえばそう思う	13	56.5
② どちらかといえばそう思わない	5	21.7
① そう思わない	1	4.3
計	23	100.0



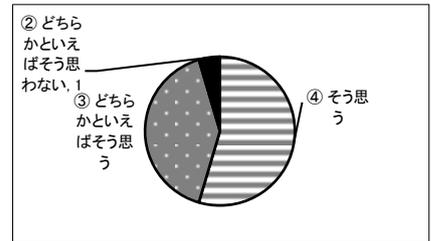
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならぬ状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	1	4.3
③ どちらかといえばそう思う	7	30.4
② どちらかといえばそう思わない	13	56.5
① そう思わない	2	8.7
計	23	100.0



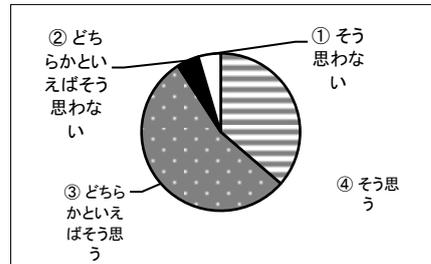
(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

	回答数	割合
④ そう思う	12	54.5
③ どちらかといえばそう思う	9	40.9
② どちらかといえばそう思わない	1	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



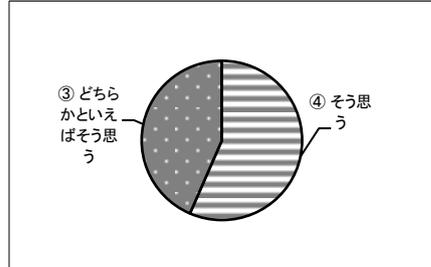
(5) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	8	36.4
③ どちらかといえばそう思う	12	54.5
② どちらかといえばそう思わない	1	4.5
① そう思わない	1	4.5
計	22	100.0



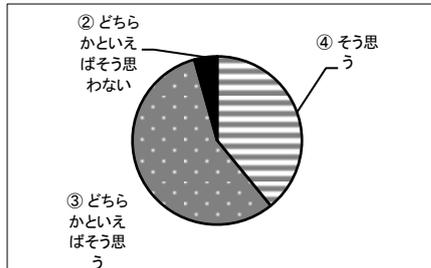
(6) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	13	56.5
③ どちらかといえばそう思う	10	43.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



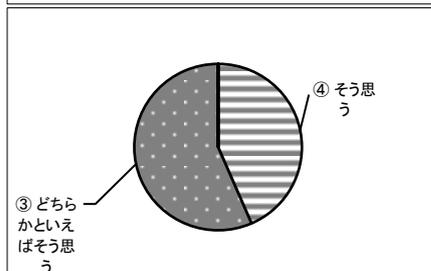
(7) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	9	39.1
③ どちらかといえばそう思う	13	56.5
② どちらかといえばそう思わない	1	4.3
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



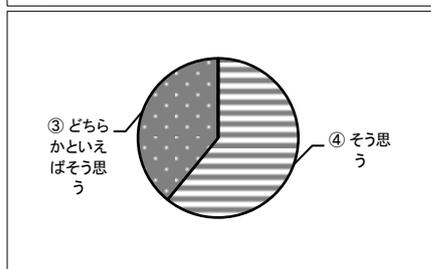
(8) 参加者の人数は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	10	43.5
③ どちらかといえばそう思う	13	56.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



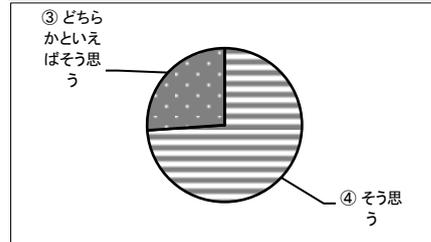
(9) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	14	60.9
③ どちらかといえばそう思う	9	39.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



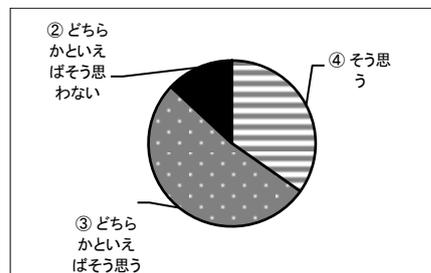
(10) 事務局の対応は丁寧だった

	回答数	割合
④ そう思う	17	73.9
③ どちらかといえばそう思う	6	26.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



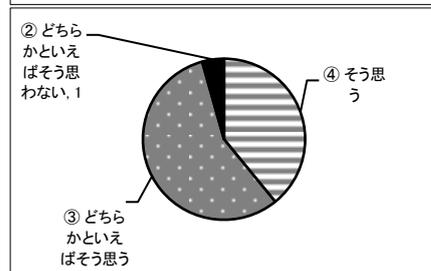
(11) 新たに人的つながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	8	34.8
③ どちらかといえばそう思う	12	52.2
② どちらかといえばそう思わない	3	13.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



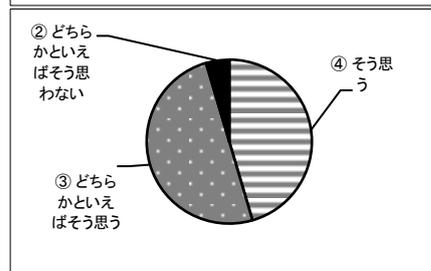
(12) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	9	39.1
③ どちらかといえばそう思う	13	56.5
② どちらかといえばそう思わない	1	4.3
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



(13) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

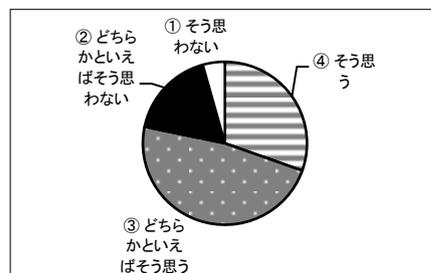
	回答数	割合
④ そう思う	10	45.5
③ どちらかといえばそう思う	11	50.0
② どちらかといえばそう思わない	1	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



3. 「コミュニケーション実践」研修について

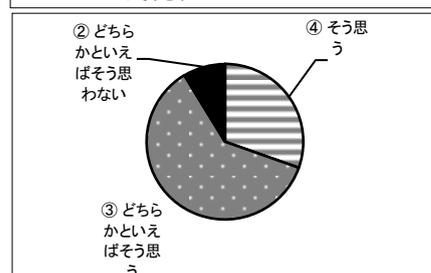
(1) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	7	30.4
③ どちらかといえばそう思う	11	47.8
② どちらかといえばそう思わない	4	17.4
① そう思わない	1	4.3
計	23	100.0



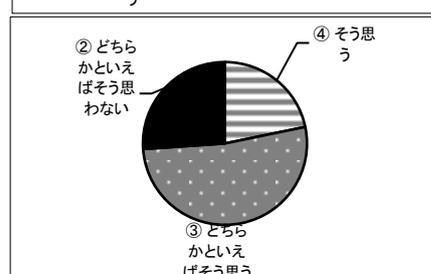
(2) 研修の内容は十分に理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	7	30.4
③ どちらかといえばそう思う	14	60.9
② どちらかといえばそう思わない	2	8.7
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



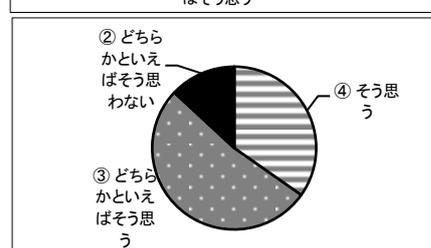
(3) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	5	21.7
③ どちらかといえばそう思う	12	52.2
② どちらかといえばそう思わない	6	26.1
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



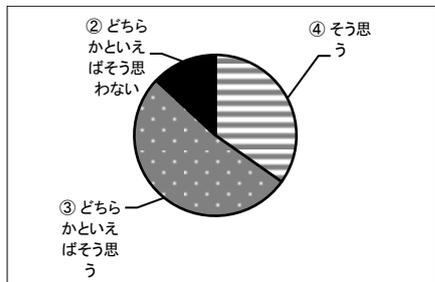
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	8	34.8
③ どちらかといえばそう思う	12	52.2
② どちらかといえばそう思わない	3	13.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



(5) 研修は満足出来るものだった

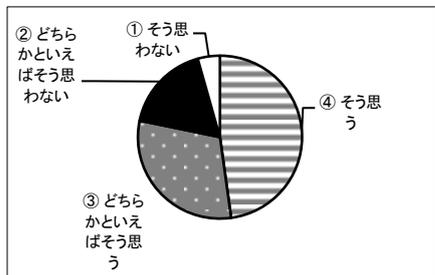
	回答数	割合
④ そう思う	8	34.8
③ どちらかといえばそう思う	12	52.2
② どちらかといえばそう思わない	3	13.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



4. 「プレゼンテーション実践」研修について

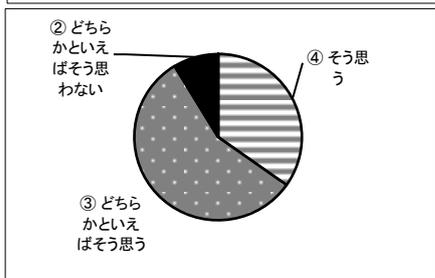
(1) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	11	47.8
③ どちらかといえばそう思う	7	30.4
② どちらかといえばそう思わない	4	17.4
① そう思わない	1	4.3
計	23	100.0



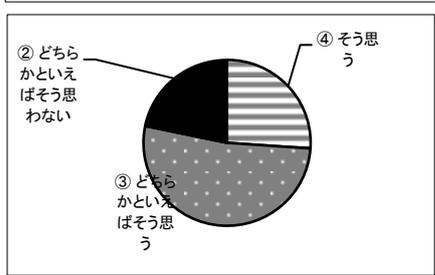
(2) 研修の内容は十分に理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	8	34.8
③ どちらかといえばそう思う	13	56.5
② どちらかといえばそう思わない	2	8.7
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



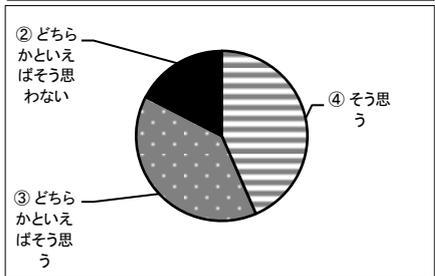
(3) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	6	26.1
③ どちらかといえばそう思う	12	52.2
② どちらかといえばそう思わない	5	21.7
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



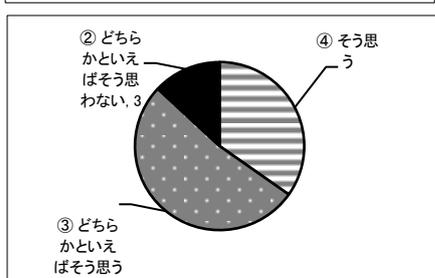
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	10	43.5
③ どちらかといえばそう思う	9	39.1
② どちらかといえばそう思わない	4	17.4
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



(5) 研修は満足出来るものだった

	回答数	割合
④ そう思う	10	43.5
③ どちらかといえばそう思う	10	43.5
② どちらかといえばそう思わない	3	13.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



5. 受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

別紙記載

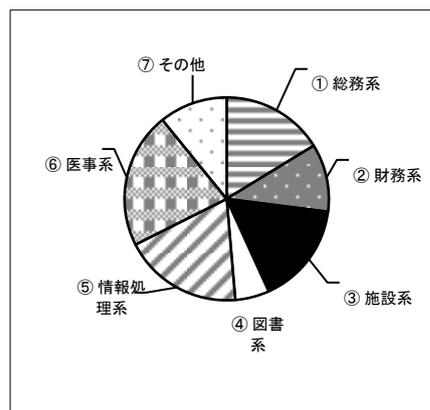
6. 研修をよりよいものにするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

7. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 総務系	6	26.1
② 財務系	4	17.4
③ 施設系	6	26.1
④ 図書系	2	8.7
⑤ 情報処理系	7	30.4
⑥ 医事系	8	34.8
⑦ その他	4	17.4



その他の記述内容

- ・研究系
- ・アドミニストレーター養成支援
- ・契約書作成
- ・俸給決定研究
- ・効果的な資料作成研究
- ・具体事例研究
- ・国際連携

【自由記述欄】

1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

- ・プレゼンテーション能力(9) (物事を分かりやすく伝える力, 伝える力, 単調に説明してしまいがちですが, 今日は実体験やユーモアを交えてプレゼンする職員の方もいらっしゃいました。とても為になりました。)
- ・コミュニケーション力(3)
- ・クレーム対応(2) (恐喝的なクレームに対する対応等こちらが悪くなくてもビビってしまうので……。教員は困る。)
- ・交渉能力(2)
- ・ケースバイケースの判断力
- ・自分の考えを相手に伝えるスキル
- ・自分の主張を効果的に分かりやすく相手に伝える力
- ・人の話を聞いて, 要点を抽出してすばやく理解する能力と, それを分かりやすく人に伝える能力
- ・人前で話す能力
- ・専門資格(知識向上)
- ・企画力(新たな試み)
- ・論理的思考
- ・アサーション
- ・説得力
- ・問題解決力
- ・データ分析
- ・大学に関する知識(研究分野)
- ・規則の作成スキル
- ・文章作成スキル
- ・パワーポイントによる資料作成
- ・心の悩みを持つ学生や, 保護者への対応(クレームまではいかない相談)

5. 受講して良かったと思われる点を, 具体的にお書き下さい。

- ・今回初めて主任レベルの研修に参加しました。皆さんたくさんの経験があり, 内容の濃いお話も聞けました。医学部は大学にはないのですが, 入試や調達のお話は興味深く, 問題の共有もできました。
- ・プレゼンテーションの機会を得たこと。また, プレゼンテーションにおいて必要なスキルについて知ることができたこと。
- ・プレゼンの技法(効果的なシートの作り方など)について学べたこと。
- ・クレーム対応(他大学の事例を含め)について学べたこと。
- ・クレーム対応に興味があったので, 基本的なもの且つ大事なものを勉強することが出来て良かったかなと思います。

- ・ロジカルシンキングについて勉強ができて良かったです。ありがとうございました。
- ・内容的にテーマが多くて少し疲れたが、勉強になる点が多々あった。また、他大学の方と知り合うこともでき良かった。
- ・意識の向上にはなった。
- ・現在の部署では、プレゼンする機会がないので、受講して良かったと思う。頭で描いている自分と、実際やってみての感想に大きな乖離があったのが衝撃であり、それに気づけたことが収穫だった。
- ・クレーム対応にて「組織の代表として」対応することが印象に残った。
- ・プレゼンの難しさを知った。
- ・人前で話すことが苦手なので、少しでも練習になって良かった。
- ・講師の方が非常に親切に、丁寧に教えてくださったので、分かりやすかった。
- ・日常教務に追われて考える時間がない。無理してでも来て良かった。久しぶりに自分のことだけを考える時間が持てた。スタッフの方々の一生懸命さに触れて、頑張ろうという気が持てた。いろんな人の話が聞けて良かった。
- ・クレーム処理について、苦情は主に担当者が最後まで、ということを知ってとても参考になった。プレゼンテーションについては、全くの初めてからのスタートだったので、とても大変でしたが学ぶものが多かった。また、他大学の方々とお話することができ、有意義な時間でした。
- ・同じ職員の立場の講師が努力している姿勢には感動しました。私自身も日々努力を怠らず、頑張っていきたいです。
- ・プレゼンテーション等の具体的手法について教えていただくことができ、大変勉強になりました。実際に実践してみることで、難しい部分やどうしていったらいいのかという点を考えることができました。クレーム対応も具体的な手法を学べたことで、今後活かせるのではないかと思います。
- ・日常業務に共通して活かせる部分が多く参加して有益だった。
- ・人脈ができた。
- ・プレゼンテーション資料作成のポイントがよくわかった。
- ・PREP法などの論理的に説明する話し方や、実際のスライド作成の注意点が参考になった。また自分で教えていただいた事を意識しながらプレゼンをして何がダメなのかわかった。
- ・業務に必要なスキルであり、実践も多く分かりやすい内容であった。
- ・他大学の職員と交流を持つことができた。研修を受けることで知識を深めることができました。
- ・他大学の同士が作れた。

6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

【コミュニケーション実践】

- ・もう少しクレームに対する対処方法についてお伺いしたかった。（ケースバイケースで片付けられてしまうと参加した意味がなくなってしまう。）
- ・ワーク事例についての講師のコメントをもう少し詳しく分かりやすくしていただけたらと思います。ワーク事例をDVD等の映像にいただいた方がより分かりやすくなるので、ワーク内で

の話し合いがもっと適切に深くできるのではないかと思います。

- ・クレーム対応については、外部の専門講師に依頼した方がいいのではないかと思います。（難しい分野なので）
- ・クレーム事例を1つではなく、2，3個できれば業務の参考になったと思います。
- ・クレーム対応は、もう少し事例研究があった方がよい。（凶悪なクレームなど）
- ・テーマを、ごく狭い範囲の実務に限ってみては？
- ・問題点や解決策は皆同じになるので、多くの人に発表させる意義はあまりない。

【プレゼンテーション実践】

- ・資料を早めに欲しかったです。
- ・プレゼン資料事前に配付して欲しかった。はじめ、説明がわかりにくかった。
- ・プレゼンテーション実践の午前の部の資料は、午前にもらえたら良かったなと思いました。（メモできるから）「カレーパーティ」があるから、事前に配ったらまずいのも分かります。勝手な意見ですが、すみません。
- ・プレゼンテーション実践の資料が後で配付されることを知らなかったため、必死でメモをとっていたのですが、後でいただけることが分かっているとより良かったかと思います。
- ・プレゼン作成の時、使用できるツール（マジック・バインダー（発表時に紙を支えるもの））がもう少したくさんあれば便利で良かった。
- ・プレゼンテーション実践については、スキルが十分でない状態でのパフォーマンスだったので、非常に難しかった。
- ・プレゼンテーション実践はパソコンを使ったものにできれば、より実践に近いものになるのではないかと感じた。
- ・各自の都合もあったかとは思いますが、四国内でもっと幅広い大学の職員の参加があれば良かったと思う。

【全体】

- ・専門毎の研修をすべき。
- ・もう少し休憩の時間が欲しかったかな？と個人的には思いました。
- ・研修の時期は、夏休み期間中に変更できないでしょうか。
- ・時々講師からの指示が漠然としていて、戸惑ってしまいました。
- ・大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・反転学習のように、事前にある程度予習をして、始まってすぐに実践に取りかかるなどすれば、より効果的な研修になるのではないかと感じました。

参加費
無料※情報交換会ご出席の方は
会費が3,000円
となります。

平成26年度 FD推進プログラム 大学教育 カンファレンス in 徳島

主要プログラム

午前

■ 開会挨拶 9:00~9:15

■ 研究発表 I

● 口頭発表 6件 / 9:15~10:00

● ワークショップ 3件 / 10:10~12:10

「反転授業」をやってみた
- 2014年度反転授業実施の中間報告 -

学部専門科目を通じた教員養成
- 『教職キャリアノート』に見る学生の学びから -

教育にインプロをとりいれてみよう
- 自らの教育活動に活かすには? -

午後

■ 研究発表 II

● ポスター発表 13件 / 14:40~15:40

● ラウンドテーブル 15:10~16:40
学生または教員間で高い評価を受けた授業の実践

● 口頭発表 10件 / 16:50~18:05

※カンファレンス終了後に情報交換会を行います。

2014年12月26日(金)

9:00~18:05 (8:30受付開始)

受付：徳島大学 共通教育4号館 2階ホール

会場：徳島大学 共通教育4号館 等

徳島大学のFD推進プログラムの一環として実施している
大学教育カンファレンスも今回で10回目となりました。

■ 特別講演 13:00~14:30

初年次における アクティブ・ラーニングの展開 —九州大学基幹教育カリキュラムを事例に—

講師 **田中 岳先生** 九州大学基幹教育院
教育企画開発部 准教授

アクティブ・ラーニングは、大学(学士課程)教育を
質的転換する切り札となり得るのだろうか…

参加方法

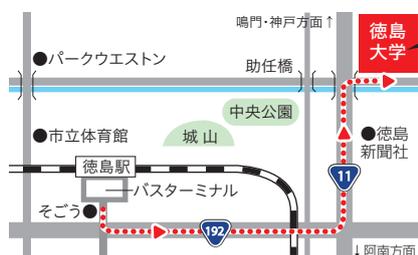
どなたでもご参加いただけます。
当日直接会場へお越しいただき、
受付をしてください。

お問い合わせ

徳島大学学務部教育企画室
大学教育カンファレンスin徳島事務局
〒770-8501 徳島市新蔵町2-24
TEL088-656-7686
E-mail:kykikakuk@tokushima-u.ac.jp
http://www.cue.tokushima-u.ac.jp/fd/

[アクセス]

- 徒歩の場合 — 30分
 - バス利用の場合 — 20分
- 徳島駅前より徳島市営バス「島田石橋」行、
「商業高校」行他に乗車し、「助任橋」又は
「徳島大学前」又は「徳島大学南」下車徒歩5分



※駐車場が限られているため、
できるだけ公共交通機関をご利用の上、
ご来場をお願いします。



平成26年度 大学教育カンファレンス in 徳島 プログラム

会期：2014年12月26日(金) 会場：徳島大学共通教育4号館 等

9:00— 9:15	学長挨拶 香川 征		
9:15 10:00	口頭発表 A ① リメディアル授業における学力と継続した学習意欲の関係 ② 徳島大学における「大学入門講座・読書レポート2014」の試み：読書からアカデミックライティングへ ③ 徳島大学における「物理学とその関連分野の教育に関する情報交換会」(通称、物理FD)の試み	口頭発表 B ① 学士課程教育の体系化を可視化するためのカリキュラムマップ作成に関わるFDと現状の課題 ② 学習スタイルの向上・改善を目指した学生と図書館職員の協働による実践の成果と課題 ③ 大学生による小中学生向けロボット教室の企画・運営～アンケート結果から見た大学生と小中学生の評価～	
10:10 12:10	ワークショップ A ■ 「反転授業」をやってみた -2014年度反転授業実施の中間報告-	ワークショップ B ■ 学部専門科目を通じた教員養成 -『教職キャリアノート』に見る学生の学びから-	ワークショップ C ■ 教育にインプロをとりにいれてみよう -自らの教育活動に活かすには?-
13:00 14:30	特別講演 演題: 初年次におけるアクティブ・ラーニングの展開 —九州大学基幹教育カリキュラムを事例に— 講師: 田中 岳先生 (九州大学基幹教育院教育企画開発部 准教授)		
14:40 16:40	ポスター発表 14:40—15:40 ① 高大連携事業「高校生の大学研究室への体験入学型学習プログラム」実施報告 (第6報) ② 中国人留学生の防災意識 ③ ふくしま、とくしま、ともに輝こうプロジェクトの活動報告 ④ Using Authentic Texts in 'English Reading Understanding' Classes at Japanese Universities ⑤ 「チャレンジ創造コンテスト」の活動における問題点と対策 ⑥ 中心静脈カテーテル(CVC)留置術個別講習会の検討 ⑦ 医療系学科1年生合同ワークショップの効果的実施 -8年間の振り返りより- ⑧ 地域育成型歯学教育プログラムの評価 (第2報)-地域福祉体験学習における教育効果の変化- ⑨ Web単語帳の自宅学習における有効性 ⑩ キャリア教育における「短期インターンシップ」の実践と課題 ⑪ 小ステップ課題演習方式によるプログラミング演習の改善 ⑫ Teaching process writing to Japanese university ESL students. ⑬ 第1回と第2回の教員の教育に関する意識調査の比較	ラウンドテーブル 15:10—16:40 ★ 学生、または教員間で高い評価を受けた授業の実践 ☆ 継続的自律英語学習を目指した英語授業の実践 徳島大学 坂田 浩 ☆ 絵本の読み聞かせを教員養成に 鳴門教育大学 余郷裕次 ☆ 阿南高専国語教育実践例～POPを用いた本の紹介発表～ 阿南工業高等専門学校 錦織浩文	
16:50 18:05	口頭発表 C ① ゼロ点補正方式の授業アンケートを用いたコミュニケーション教育の授業改善 ② ティーチングアシスタントを主体とする高大院連携化学実験の実践と評価 ③ 手作り自動滴定装置の改良・改善プロジェクト ④ グローバル化社会に向けた教養教育の課題 ⑤ 授業のアクティブラーニング化は学生の自学自習を促進するか?-反転授業の場合-	口頭発表 D ① ティーチング・アシスタントの体験による教育者としての実践力と資質能力向上の分析 ② 学生が教職実践演習を通して明確化する教師像と養護教諭観 ③ プロジェクト活動で得られたこと ④ 徳島大学就職支援団体「ACTIVE」の活動について ⑤ 徳島大学就職支援団体「ACTIVE」によるアンケート調査の報告～徳島大学における就職活動の実態調査～	
18:30～20:30 情報交換会			

平成 26 年度 徳島大学 F D 推進プログラム
「大学教育カンファレンス in 徳島」プログラム

会期：2014 年 12 月 26 日（金） 会場：徳島大学共通教育 4 号館等

8:30 ~ 9:00	受 付 <共通教育 4 号館 2 階ホール>		
9:00 ~ 9:15	学長挨拶 香川 征 <共通教育 4 号館 202 講義室> 司会：赤池雅史		
9:15 ~ 10:00	<p>口頭発表 A 座長：佐田政隆 <4 号館 202 講義室> A① 9:15~9:30 ■リメディアル授業における 学力と継続した学習意欲の 関係 大学院リソ・アーツ・アンド・サイエンス研 究部 齊藤隆仁</p>	<p>口頭発表 B 座長：下村直行 <4 号館 203 講義室> B① 9:15~9:30 ■学士課程教育の体系化を可 視化するためのカリキュラ ムマップ作成に関わる F D と現状の課題 総合教育センター 吉田 博 他</p>	
	<p>A② 9:30~9:45 ■徳島大学における「大学入 門講座・読書レポート 2014」 の試み：読書からアカデミ ックライティングへ 全学共通教育センター 古屋 玲 他</p>	<p>B② 9:30~9:45 ■学習スタイルの向上・改善を 目指した学生と図書館職員 の協働による実践の成果と 課題 工学部電気電子工学科 片山裕之 他</p>	
	<p>A③ 9:45~10:00 ■徳島大学における「物理学 とその関連分野の教育に関 する情報交換会」 (通称、物理 FD) の試み 全学共通教育センター 古屋 玲 他</p>	<p>B③ 9:45~10:00 ■大学生による小中学生向け ロボット教室の企画・運営 ～アンケート結果から見た 大学生と小中学生の評価～ 工学部機械工学科 足立一真 他</p>	
10:00 ~10:10	休 憩		
10:10 ~12:10	<p>ワークショップ A <4 号館 202 講義室> ◆「反転授業」をやってみた —2014 年度反転授業実施 の中間報告— 総合教育センター 金西計英 他</p>	<p>ワークショップ B <4 号館 203 講義室> ◆学部専門科目を通じた 教員養成 —『教職キャリアノー ト』に見る学生の学びか ら— 大学院リソ・アーツ・アンド・サイ エンス研究部 坂田大輔</p>	<p>ワークショップ C <5 号館 2 階 会議室> ◆教育にインプロをとり いれてみよう —自らの教育活動に活 かすには?— 国際センター Gehertz 三隅友子 他</p>

12:10 ~13:00	昼食休憩	
13:00 ~14:30	<p>特別講演</p> <p>司会：川野卓二 <4号館 202 講義室></p> <p>演題：初年次におけるアクティブ・ラーニングの展開 —九州大学基幹教育カリキュラムを事例に—</p> <p>講師：田中 岳先生（九州大学基幹教育院教育企画開発部 准教授）</p>	
14:30 ~14:40	休憩	
14:40 ~16:40	<p>ポスター発表</p> <p><5号館 2階 学生自習スペース> 14:40~15:40</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高大連携事業「高校生の大学研究室への体験入学型学習プログラム」実施報告（第6報）P① 大学院ソオ・アツ・アンド・サイエンス研究部 渡部 稔 他 ●中国人留学生の防災意識 P② 大学院ソオ・アツ・アンド・サイエンス研究部 山本真由美 他 ●ふくしま、とくしま、ともに輝こうプロジェクトの活動報告P③ 大学院ソオ・アツ・アンド・サイエンス研究部 中山信太郎 他 ●Using Authentic Texts in 'English Reading Understanding' Classes at Japanese Universities P④ 大学院ソオ・アツ・アンド・サイエンス研究部 Dierk Clemens Guenther ●「チャレンジ創造コンテスト」の活動における問題点と対策 P⑤ 工学部機械工学科 三好 遥 他 ●中心静脈カテーテル(CVC)留置術個別講習会の検討P⑥ 大学院ヘルパ・イサイエンス研究部 岩田 貴 他 ●医療系学科1年生合同ワークショップの効果的实施 —8年間の振り返りより— P⑦ 大学院ヘルパ・イサイエンス研究部 長宗雅美 他 ●地域育成型歯学教育プログラムの評価（第2報） —地域福祉体験学習における教育効果の変化— P⑧ 大学院ヘルパ・イサイエンス研究部 藪内さつき 他 ●Web 単語帳の自宅学習における有効性 P⑨ 全学共通教育センター（非常勤講師）ギュンター 知枝 ●キャリア教育における「短期インターンシップ」の実践と課題 P⑩ 総合教育センター 山野明美 他 ●小ステップ課題演習方式によるプログラミング演習の改善 P⑪ 阿南工業高等専門学校 吉田 晋 他 ●Teaching process writing to Japanese university ESL students. P⑫ 立命館大学 Christopher Pond ●第1回と第2回の教員の教育に関する意識調査の比較 P⑬ 総合教育センター 上岡麻衣子 他 	<p>ラウンドテーブル</p> <p>座長：赤池雅史 <4号館 202 講義室> 15:10~16:40</p> <p>★学生、または教員間で高い評価を受けた授業の実践</p> <p>☆継続的自律英語学習を目指した英語授業の実践</p> <p>徳島大学 坂田 浩</p> <p>☆絵本の読み聞かせを教員養成に</p> <p>鳴門教育大学 余郷裕次</p> <p>☆阿南高専国語教育実践例 ~POPを用いた本の紹介発表~</p> <p>阿南工業高等専門学校 錦織浩文</p>
16:40 ~16:50	休憩	

16:50 ~18:05	<p style="text-align: center;">口頭発表C 座長：羽地達次 〈4号館 202 講義室〉</p> <p>C① 16:50~17:05 ■ゼロ点補正方式の授業アンケートを用いたコミュニケーション教育の授業改善</p> <p>大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 久田旭彦</p>	<p style="text-align: center;">口頭発表D 座長：上田哲史 〈4号館 203 講義室〉</p> <p>D① 16:50~17:05 ■ティーチング・アシスタントの体験による教育者としての実践力と資質能力向上の分析</p> <p>大学院保健科学教育部 水本絢子 他</p>
	<p>C② 17:05~17:20 ■ティーチングアシスタントを主体とする高大院連携化学実験の実践と評価</p> <p>大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 南川慶二 他</p>	<p>D② 17:05~17:20 ■学生が教職実践演習を通して明確化する教師像と養護教諭観</p> <p>大学院ヘルス・サイエンス研究部 奥田紀久子 他</p>
	<p>C③ 17:20~17:35 ■手作り自動滴定装置の改良・改善プロジェクト</p> <p>大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 外輪健一郎 他</p>	<p>D③ 17:20~17:35 ■プロジェクト活動で得られたこと</p> <p>工学部知能情報工学科 竹田智洋</p>
	<p>C④ 17:35~17:50 ■グローバル化社会に向けた教養教育の課題</p> <p>大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 大橋 眞 他</p>	<p>D④ 17:35~17:50 ■徳島大学就職支援団体「ACTIVE」の活動について</p> <p>大学院先端技術科学教育部 山口喜堂 他</p>
	<p>C⑤ 17:50~18:05 ■授業のアクティブラーニング化は学生の自学自習を促進するか？ ー反転授業の場合ー</p> <p>大学院ヘルス・サイエンス研究部 三笠洋明 他</p>	<p>D⑤ 17:50~18:05 ■徳島大学就職支援団体「ACTIVE」によるアンケート調査の報告 ～徳島大学における就職活動の実態調査～</p> <p>大学院先端技術科学教育部 山口喜堂 他</p>
18:30 ~20:30	情報交換会 <生協食堂>	